

対象学科	全学科		担当教員	永井 猛, 松崎安子, 長福香菜	
授業科目名	国語I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	4
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この講義は、本校の教育目標のうち「コミュニケーション力」を養う科目である。高等学校用教科書の『国語総合』を用いて、現代文、古文、漢文にわたって幅広い言語教育を行う。				
関連する本校の学習教育目標	E		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の文法を理解できる。 ・他者の意見や考えを、的確に、場合によっては多角的な視点から読み取ったり聞いたりすることができる。 ・他者の行う表現を聞いたり読んだりしながら、自らの心情を豊かにしようと努めることができる。 ・自分の意見や考えを、的確な日本語表現を用いて話したり、書いたりできる。 				
授業の進め方とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・現代文、古文、漢文を交互に取り上げ、基礎力の充実を図りつつ、幅広い言語能力が身に付くように授業を進めていく。 ・質問は、休憩時間、放課後に随時、受け付ける。 				
授業内容とスケジュール	第1週: 修学ガイダンス 第2週: 随想 「くうぜん、うたがう、読書のススメ」 第3週: 随想 「『待つ』ということ」 第4週: 古文 古文入門 「児のそら寝」 第5週: 古文 古文入門 「児のそら寝」 第6週: 古文 古文入門 「検非違使忠明」 第7週: 古文 古文入門 「検非違使忠明」 第8週: 前期中間試験 第9週: 小説 「羅生門」 第10週: 小説 「羅生門」 第11週: 小説 「羅生門」 第12週: 漢文 漢文入門 「漢文の世界へ」 第13週: 漢文 漢文入門 「漢文の構造と訓読の仕方」 第14週: 漢文 漢文入門 「成句・格言を読む」 第15週: 小説 「青が消える」 前期末試験 第16週: 古文 古文入門 「阿蘇の史」 第17週: 古文 伊勢物語 「芥川」 第18週: 古文 伊勢物語 「芥川」 第19週: 評論 「言語は色眼鏡である」 第20週: 評論 「言語は色眼鏡である」 第21週: 評論 「森に起きていること」 第22週: 評論 「森に起きていること」 第23週: 後期中間試験 第24週: 漢文 故事成語 「推敲」 第25週: 漢文 故事成語 「蛇足」 第26週: 詩 「旅上」 「I was born」 「崖」 第27週: 詩 「旅上」 「I was born」 「崖」 第28週: 古文 徒然草 「つれづれなるままに」 第29週: 古文 徒然草 「ある人、弓射ることを習ふに」 「神無月のころ」 第30週: 小説 「清兵衛と瓢箪」 学年末試験				
教科書	『精選 国語総合』(三省堂)、『新装版 書き込み式 常用漢字の演習』(浜島書店)				
参考書	国語辞典、古語辞典、漢和辞典				
関連教科	歴史、地理、音楽など多くの教科				
基礎知識	歴史、地理、音楽など				
成績の評価方法	総合評価割合		前期中間、前期末試験、後期中間試験、学年末試験を中心に、課題等を加味して100点満点の点数評価をする。		
	定期試験	80%			
	レポート	20%			
	演習・小テスト				
				100%	
備考					

対象学科	全学科		担当教員	永井 猛, 松崎安子, 長福香菜	
授業科目名	国語II		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	3
区分	必修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この講義は、本校の教育目標のうち、社会とかわるための「コミュニケーション力」を養う科目である。高等学校用教科書の『国語総合』を用いて、現代文、古文、漢文にわたって幅広い国語教育を行う。				
関連する本校の学習教育目標	E		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の文法を踏まえながら、さらに言語文化に対する関心を深めたり、言語感覚を磨くよう努めることができる。 ・他者の主張について、的確にとらえ、批判的な視点をもって思考することができる。 ・自分の意見や考えを、相手に応じ、的確かつ効果的な日本語表現を用いて話したり、書いたりできる。 				
授業の進め方とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・現代文、古文、漢文を交互に取り上げ、基礎力の充実を図りつつ、幅広い言語能力が身に付くように授業を進めていく。 ・質問のある場合は、休憩時間、放課後、随時受け付ける。 				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス、小説「海の方の子」 第2週: 小説「海の方の子」 第3週: 小説「海の方の子」 第4週: 古文 伊勢物語「芥川」「東下り」 第5週: 短歌・俳句「白鳥は哀しからずや」「万緑の中や」 第6週: 短歌・俳句「白鳥は哀しからずや」「万緑の中や」 第7週: 短歌・俳句「白鳥は哀しからずや」「万緑の中や」 第8週: 前期中間試験 第9週: 漢文 十八史略「鶏口牛後」 第10週: 漢文 十八史略「鶏口牛後」 第11週: 評論「世界中がハンバーガー」 第12週: 評論「世界中がハンバーガー」 第13週: 古文 平家物語「祇園精舎」「富士川」「坂落」 第14週: 古文 平家物語「祇園精舎」「富士川」「坂落」 第15週: 古文 平家物語「祇園精舎」「富士川」「坂落」 前期末試験 第16週: 古文 平家物語「富士川」「坂落」 第17週: 評論「『思われる』と『考える』」 第18週: 評論「『思われる』と『考える』」 第19週: 評論「『思われる』と『考える』」 第20週: 漢文 唐詩「漢詩のリズム」「春暁」 第21週: 漢文 唐詩「静夜思」「江雪」 第22週: 漢文 唐詩「送元二使安西」「春望」 第23週: 後期中間試験 第24週: 小説「城崎にて」 第25週: 小説「城崎にて」 第26週: 古文 奥の細道「旅立ち」「平泉」 第27週: 古文 奥の細道「旅立ち」「平泉」 第28週: 漢文 論語「論語」 第29週: 漢文 論語「論語」 第30週: 漢文 論語「論語」 学年末試験				
教科書	『高等学校 国語総合』(明治書院)、『漢字能力検定5～2級対応 級別 漢字マスター』(数研出版)				
参考書	国語辞典、古語辞典、漢和辞典				
関連教科	地理、歴史、倫理、音楽など多くの教科				
基礎知識	地理、歴史、倫理、音楽など				
成績の評価方法	総合評価割合		前期中間、前期末試験、後期中間試験、学年末試験を中心に、課題等を加味して100点満点の点数評価をする。		
	定期試験	80%			
	レポート	20%			
	演習・小テスト				
	その他				
備考			100%		

対象学科	3M,3E,3D,3C		担当教員	非常勤講師 生田 眞	
授業科目名	国語Ⅲ		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この講義は、本校の教育目標のうち、社会とかわるための「コミュニケーション力」を養う科目である。高等学校用教科書の『古典』を用いて、言葉が時代と共にどう変化したのかを知り、よりの確な表現法を身に付けられるように、豊かな国語教育を行う。				
関連する本校の学習教育目標	E		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた表現に接し、自分の表現に役立てることができる。 ・さまざまな文章を読んで、価値観の多様性が理解できる。 ・国語を的確に理解し適切に表現する能力を身に付けることができる。 ・言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深めることができる。 				
授業の進め方とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・有名な文学作品を取り上げ、読解作業を通して基礎力の充実を図り、幅広い言語能力が身に付くように授業を進めていく。 ・質問のある場合は、授業のある日の休憩時間に随時、受け付ける。 				
授業内容とスケジュール	<p>第1週: ガイダンス、門出「土佐日記」 第2週: 門出「土佐日記」 第3週: 門出「土佐日記」 第4週: 陰暦の月、方位、時刻 第5週: 帰京「土佐日記」 第6週: 帰京「土佐日記」 第7週: 帰京「土佐日記」 第8週: 前期中間試験 第9週: 現代語敬語の構造と例文演習「自作演習プリント」 第10週: 「先生がおしゃられた」敬語の誤り「自作演習プリント」 第11週: 「花に水をあげる」敬語の誤り「自作演習プリント」 第12週: 正しいことばと話し方例文演習「自作演習プリント」 第13週: 正しいことばと話し方例文演習「自作演習プリント」 第14週: つい間違ってしまう漢字・プリント演習「自作演習プリント」 第15週: つい間違ってしまう故事・慣用句・プリント演習「自作演習プリント」 前期末試験</p> <p>第16週: 古語敬語の構造と例文演習 第17週: 尼、地蔵を見奉ること「宇治拾遺物語」 第18週: 尼、地蔵を見奉ること「宇治拾遺物語」 第19週: 尼、地蔵を見奉ること「宇治拾遺物語」 第20週: かぐや姫の嘆き「竹取物語」 第21週: かぐや姫の嘆き「竹取物語」 第22週: かぐや姫の嘆き「竹取物語」 第23週: 後期中間試験 第24週: 万葉集「和歌」 第25週: 古今和歌集「和歌」 第26週: 新古今和歌集「和歌」 第27週: 「自分のために詠まれた歌」が、必ずある 小川洋子 第28週: 小倉百人一首抜粋 第29週: 小倉百人一首抜粋 第30週: 小倉百人一首抜粋 学年末試験</p>				
教科書	『精選 国語総合 古典編』(明治書院)				
参考書	国語辞典、古語辞典、漢和辞典(電子辞書で可)				
関連教科基礎知識	歴史、地理、現代社会、音楽など多くの教科				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験を中心に演習等を加味して100点満点の点数評価をする。		
	定期試験		80%		
	レポート				
	演習・小テスト		20%		
	その他				
備考			100%		

対象学科	3A		担当教員	非常勤講師 中永廣樹	
授業科目名	国語Ⅲ		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この講義は、本校の教育理念に基づく「養成すべき人材像」の中の「豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材」を養成するとともに、「学習・教育目標」の中の「社会とかわるためのコミュニケーション力」を身に付けることを目指す。				
関連する本校の学習教育目標	E		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	優れた古典作品(古文・漢文)を鑑賞することで、古典の言語を通して言語感覚を磨き、表現力を身につけるとともに、古人の生き方・感じ方を知り、現代のわれわれの生き方の参考にするなどして、幅広い考え方や教養を身につけることができる。				
授業の進め方とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・古語辞典、配布する文法・表現等に関する資料を持参すること。 ・授業では教科書以外にも、適宜、プリント教材等を用いる。 ・質問のある場合は、授業のある日の休憩時間に随時、受け付ける。 				
授業内容とスケジュール	<p>第1週: 授業のガイダンス、古典を学ぶ意義 《古文》宇治拾遺物語1「尼、地藏を見奉ること」</p> <p>2週: 宇治拾遺物語2「尼、地藏を見奉ること」</p> <p>3週: 竹取物語1「かぐや姫の生ひ立ち」</p> <p>4週: 竹取物語2「かぐや姫の嘆き」</p> <p>5週: プリント教材(言葉の学習1)</p> <p>6週: 伊勢物語1「筒井筒」</p> <p>7週: 伊勢物語2「 " 」</p> <p>8週: 前期中間試験</p> <p>9週: 和歌1「万葉集」</p> <p>10週: 和歌2「古今和歌集」</p> <p>11週: 和歌3「新古今和歌集」</p> <p>12週: 和歌4・プリント教材(古典の名歌)</p> <p>13週: 平家物語1「能登殿最期」</p> <p>14週: 平家物語2「 " 」</p> <p>15週: プリント教材(言葉の学習2) 前期期末試験</p> <p>16週: 土佐日記1「門出」</p> <p>17週: 土佐日記2「帰京」</p> <p>18週: プリント教材(言葉の学習3)</p> <p>19週: 奥の細道1「旅立ち」</p> <p>20週: 奥の細道2「 " 」</p> <p>21週: 奥の細道3「平泉」</p> <p>22週: 奥の細道4「 " 」</p> <p>23週: 後期中間試験</p> <p>24週: 奥の細道5「立石寺」</p> <p>25週: プリント教材(古典の名句)</p> <p>26週: 《漢文》故事「守株」「蛇足」</p> <p>27週: 唐詩1「春暎」「静夜思」</p> <p>28週: 唐詩2「江雪」「送元二使安西」「春望」</p> <p>29週: 思想「論語」</p> <p>30週: プリント教材(言葉の学習4) 学年末試験</p>				
教科書	『精選 国語総合 古典編』(明治書院)				
参考書	国語辞典、古語辞典(電子辞書で可)				
関連教科	国語、歴史、音楽など				
基礎知識	国語、日本史など				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験とレポートによって、100点満点の点数評価をする。		
	定期試験		90%		
	レポート		10%		
	演習・小テスト				
	その他				
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 布施圭司	
授業科目名	現代社会		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	政治、経済など現代の社会のしくみを理解し、現代の社会が直面している諸問題や諸課題を学習する。社会のあり方や社会における自己のあり方について理解を深める。				
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	現代社会の政治や経済のしくみについて基礎的な事項を説明できる。 現代日本が直面している政治、経済、国際関係に関する主要な問題を理解できる。				
授業の進め方とアドバイス	基礎的事項の修得を重視するので、毎回着実に学んでゆくこと。 授業外では新聞などで世界の出来事に注意を払い、また人文社会関係の教養書を読むことが望ましい。 毎火曜日の16-17時をオフィスアワーとするので、質問などがある学生は研究室に来ること。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス、民主社会の倫理(1) 生命・人間の尊厳 第2週: 民主社会の倫理(2) 民主社会の思想と倫理 第3週: 日本国憲法の原則(1) 成立と基本原則 第4週: 日本国憲法の原則(2) 平和主義 第5週: 日本国憲法の原則(3) 自由権 第6週: 日本国憲法の原則(4) 平等権 第7週: 日本国憲法の原則(5) 社会権・広がっていく人権 第8週: 前期中間試験 第9週: 日本の政治のしくみ(1) 裁判所・国会 第10週: 日本の政治のしくみ(2) 内閣 第11週: 日本の政治のしくみ(3) 政党政治 第12週: 日本の政治のしくみ(4) 官庁 第13週: 日本の政治のしくみ(5) 地方自治 第14週: 日本の政治のしくみ(6) 個人と社会の倫理 第15週: 経済のしくみ(1) 資本主義経済 前期末試験 第16週: 経済のしくみ(2) 企業・貨幣 第17週: 経済のしくみ(3) 財政 第18週: 経済のしくみ(4) 国民経済 第19週: 経済のしくみ(5) 貿易の拡大・国際通貨制度 第20週: 日本経済の現状と課題(1) 日本経済の動き 第21週: 日本経済の現状と課題(2) 労働問題 第22週: 日本経済の現状と課題(3) 雇用のあり方 第23週: 後期中間試験 第24週: 日本経済の現状と課題(4) 社会保障 第25週: 日本経済の現状と課題(5) 公害と環境 第26週: 日本経済の現状と課題(6) 中小企業 第27週: 日本経済の現状と課題(7) 食料と農業 第28週: 日本経済の現状と課題(8) 消費者問題 第29週: 国際社会(1) 主権国家と国際法 第30週: 国際社会(2) 国際連合と国際社会 学年末試験				
教科書	新現代社会(清水書院)、新現代社会 最新版ワークノート(清水書院)				
参考書					
関連教科	歴史I・II、地理、社会科学I・II・III				
基礎知識	中学校で学ぶ社会科の知識				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験、その他(課題、聴講状況など)を総合して評価する。		
	定期試験	80%			
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他	20%			
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 加藤博和	
授業科目名	地理		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	近隣諸国の生活・文化と日本との関係、世界の諸地域の生活・文化と環境などを中心に学習する。				
関連する本校の学習教育目標	(A)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識ができること。地理的な見方や考え方ができること。				
授業の進め方とアドバイス	配付したプリントを用いて、世界各地の自然環境、産業、文化など(地誌)について学習する。毎週月曜日16~17時をオフィスパワーとするので、質問などがある学生は研究室に来ること。				
授業内容とスケジュール	第1週: イントロダクション 第2週: 現代世界の課題 第3週: 韓国の白地図 第4週: 後期中間試験 第5週: 苦難を乗り越えた韓国 第6週: 韓国の国土構造と隣国日本との交流 第7週: 韓国の生活と文化 日本文化との共通性と異質性 第8週: 前期中間試験 第9週: ロシアの白地図 第10週: ロシアの自然・生活と日本 第11週: 極東ロシアと日本とのつながり 第12週: 中国の白地図 第13週: 地図から見た中国の特色と日本との違い 第14週: 改革開放と市場経済化 第15週: 国土構造と人々の生活 拡大する地域格差 前期期末試験 第16週: 中国文化と華人社会 第17週: 深まる日本と中国の経済交流 活発な日本企業の進出 第18週: 東南アジアの白地図 第19週: 東南アジアの自然環境と生活・文化 第20週: ASEAN諸国の多様性 第21週: タイの産業と開発 第22週: 南アジアの白地図 第23週: 変化に富む南アジアの自然環境と生活・文化 第24週: インドの国土構造と変化する都市・農村 第25週: インドの成長と南アジアの国々 第26週: 西アジア・北アフリカの白地図 第27週: 乾燥地域での人々の暮らし 第28週: イスラム教とアラビア語 第29週: 中・南部アフリカの白地図 第30週: 中・南部アフリカの生活・文化と環境 学年末試験				
教科書	『新コンパクト地図帳』(二宮書店)				
参考書					
関連教科	歴史、現代社会				
基礎知識	中学校社会科				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験(90%)と、課題(10%)で評価する。		
	定期試験	90%			
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他	10%			
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 山藤良治	
授業科目名	歴史I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この講義は本校の教育目標のうち「基礎力」、「倫理力」を養う科目である。具体的には、日本地域における人類の歩みを人類の登場から中世(室町時代)までの時代について講義する。 各時代を通史的に扱うことはせず、時代ごとの特色と問題をとりあげ、時代性・地域性を理解できるようにつとめる。				
関連する本校の学習教育目標	(A)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	(1)日本地域における社会と人類の進歩と発展の基本的事項について理解できる。 (2)日本史における基本的な事象について、歴史的に見ること、考えることができる。				
授業の進め方とアドバイス	個々の事件・事象を表層的にとらえるのではなく、それぞれの歴史的事実・現象の背景や因果関係について理解・考察できるように留意し、歴史の流れを把握することに主眼をおく。なお、毎週火曜日の16時～17時をオフィスアワーとするので、質問などがある学生は山藤研究室または学生主事室に来ること。				
授業内容とスケジュール	第1週: 修学ガイダンス 第2週: 人類の誕生と旧石器時代 縄文時代の社会と文化(1)自然環境の変化と人類の対応 第3週: " (2)社会と習俗 第4週: 弥生時代の社会と文化(1)水稲農業のはじまり 第5週: " (2)小国の分立と邪馬台国 第6週: 古墳の成立と発展 第7週: 大和政権の成立と発展 第8週: 前期中間試験 第9週: 大和政権の動揺と律令国家の成立 第10週: 律令体制下の貴族 第11週: 律令体制下の農民の生活 第12週: 奈良時代の政治と社会 第13週: 平安初期の政治改革 第14週: 摂関政治と地方政治 第15週: 荘園の成立と発展 前期期末試験 第16週: 武士の登場と武士団の形成 第17週: 院政 第18週: 平氏政権 第19週: 鎌倉幕府の成立 第20週: 武家政権の展開 第21週: 鎌倉武士と農村 第22週: 農民生活と諸産業の発達 第23週: 後期中間試験 第24週: 蒙古襲来と鎌倉幕府の衰退 第25週: 仏教思想の展開 第26週: 鎌倉幕府の滅亡 第27週: 南北朝の動乱 第28週: 室町幕府の政治と対外関係 第29週: 惣村の発展 第30週: 室町幕府の崩壊と応仁の乱 学年末試験				
教科書	宮原武夫ほか「高校日本史B」新訂版				
参考書					
関連教科	歴史II(2年)、現代社会(2年)、地理(3年)、社会科学I、II、III(4年)など				
基礎知識	国語(漢文、古文)				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験、レポート課題のほか、授業中の発表を加えて総合的に評価する。		
	定期試験	60%			
	レポート	20%			
	演習・小テスト	0%			
	その他	20%			
		100%			
備考					

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 中原道宣	
授業科目名	歴史II		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この講義は本校の教育目標のうち「基礎力」、「倫理力」を養う科目である。具体的には、1年次の歴史学習を基礎にして、更に明治以降の日本の歴史を学ぶことにより、日本が過去に歩んできた跡を知り、現代日本の形成の過程と、日本の文化、社会の特質を理解する。				
関連する本校の学習教育目標	(A)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	(1)具体的な歴史的事実を正しく認識することができる。 (2)個別の事実を羅列的に知るのではなく、同時代の政治・経済・文化など各種の分野の事実との関連に注意し、前後の時代との因果関係についても考察し理解できる。				
授業の進め方とアドバイス	講義形式。なるべく多くの“史料”を活用しながら科学的な歴史認識の涵養を目指したい。今後よりよい社会や文化を創るにはどうすればよいかという問題を解く手がかりをつかむつもりで授業に臨んでほしい。 なお、質問がある場合は授業終了後の休憩時間に申し出ること。				
授業内容とスケジュール	第1週：授業のガイダンス・欧米の東アジア進出 第2週：日本の開国・貿易の開始 第3週：安政の政局・公武合体 第4週：攘夷運動の全盛と挫折・薩長同盟と幕府 第5週：討幕運動と大政奉還・王政復古 第6週：戊辰戦争・新政府の成立・集権化の達成 第7週：徴兵制と警察・四民平等 第8週：前期中間試験 第9週：地租改正・殖産興業 第10週：岩倉使節団と留守政府・征韓論政変・台湾出兵と江華島事件 第11週：国境の確定・民権運動の出発・農民一揆と土族反乱 第12週：西欧文明の受容・神道、仏教、キリスト教 第13週：教育の普及・文明開化の世情・民権運動の高揚 第14週：明治十四年の政変・松方財政 第15週：民権運動の衰退と激化・大同団結運動・国家機構の整備 前期末試験 第16週：大日本帝国憲法・法典編纂と家制度 第17週：地方制度と北海道、沖縄・条約改正交渉の開始・井上の改正交渉 第18週：大隈の改正交渉・条約改正の実現・第1回総選挙・初期議会 第19週：朝鮮問題・日清戦争 第20週：下関条約と三国干渉・藩閥官僚と政党 第21週：立憲政友会の成立・極東情勢と日英同盟 第22週：極東情勢と日英同盟・日露戦争 第23週：後期中間試験 第24週：大陸への膨張・日露戦争後の国際関係 第25週：桂園時代・産業革命の展開・繊維工業の発展・重工業の確立 第26週：輸送産業の発達・財閥と貿易・農業と寄生地主 第27週：社会問題の発生・社会運動の開始・社会主義運動の展開 第28週：憲政擁護運動・日本の大戦参加と二十一か条要求 第29週：日本の大戦参加と二十一か条要求・ロシア革命・大戦景気 第30週：都市化と都市文化 学年末試験				
教科書	脇田修、大山喬平「日本史B」実教出版				
参考書	一般歴史関係図書				
関連教科	国語(文学史等)、現代社会				
基礎知識	中学までの「歴史」、古文読解力				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験・中間試験を総合して評価する。		
	定期試験	100%			
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他				
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 倉田久靖・古清水大直 非常勤講師 石本雅敏・浦木 勇	
授業科目名	数学I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	整式の計算、数、集合と命題、等式と不等式、点と直線、円と2次曲線、不等式と領域、図形の性質、場合の数と二項定理について学習する。				
関連する本校の学習教育目標	A		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	数式の基礎的な計算および応用ができる。 方程式・不等式の解法を理解できる。 直線や2次曲線の性質を理解でき、与えられた条件を満たす直線や2次曲線の方程式を立てることができる。				
授業の進め方とアドバイス	教科書を中心に講義を進め、教科書、問題集の問を割り当て、板書による添削を行う。質問は随時受け付ける。なお、担当教員以外に質問しても良い。				
授業内容とスケジュール	第1週: 修学ガイダンス 第2週: 整式の加法・減法、整式の乗法 第3週: 因数分解 第4週: 整式の除法 第5週: 剰余の定理と因数定理 第6週: 分数式の計算 第7週: 実数、平方根 第8週: 前期中間試験 第9週: 複素数 第10週: 2次方程式、解と係数の関係 第11週: いろいろな方程式 第12週: 恒等式 第13週: 等式の証明 第14週: 1次不等式 第15週: 連立不等式 前期末試験 第16週: いろいろな不等式 第17週: 不等式の証明 第18週: 2点間の距離と内分点 第19週: 直線の方程式、2直線の関係 第20週: 円の方程式 第21週: 楕円 第22週: 双曲線、放物線 第23週: 後期中間試験 第24週: 2次曲線の接線 第25週: 不等式と領域 第26週: 場合の数 第27週: 順列 第28週: 組合せ 第29週: いろいろな順列、二項定理 第30週: 集合、命題 学年末試験				
教科書	斎藤 斉ほか「新基礎数学」大日本図書、「新基礎数学 問題集」大日本図書				
参考書	三ツ廣 孝「大学・高専生のための 解法演習 基礎数学」森北出版				
関連教科	専門科目を含むほとんどの科目				
基礎知識	中学までの数学				
成績の評価方法	総合評価割合		成績は定期試験(70%)、演習など(30%)により評価する。		
	定期試験		70%		
	レポート				
	演習・小テスト		30%		
	その他				
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 大庭経示・古清水大直 非常勤講師 小枝晃子	
授業科目名	数学II		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	2次関数、2次方程式、2次関数のグラフと不等式、三角関数の定義、三角関数の性質、加法定理とその応用、三角形の性質、関数とグラフ、指数関数、対数関数について学習する。				
関連する本校の学習教育目標	A		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	2次関数・べき関数・分数関数・無理関数・三角関数・指数関数の各関数について、 ・その性質を理解し、計算ができる ・グラフがかけられる ・これらの関数を含む方程式・不等式が解ける				
授業の進め方とアドバイス	教科書を中心に講義を進め、教科書、問題集の間を割り当て、板書による添削を行う。質問は随時受け付ける。なお、担当教員以外に質問しても良い。				
授業内容とスケジュール	第1週 修学ガイダンス 第2週 第3章 §1 関数とグラフ 第3週 2次関数のグラフ 第4週 2次関数の最大・最小 第5週 2次関数と2次方程式 第6週 2次関数と2次不等式 第7週 問題演習 第8週 ※前期中間試験 第9週 第3章 §2 べき関数・分数関数 第10週 無理関数 第11週 逆関数 第12週 第5章 §1 鋭角の三角比 第13週 鈍角の三角比 第14週 三角形への応用 第15週 問題演習 第16週 ※前期末試験 第17週 第5章 §2 一般角 第18週 一般角の三角関数 第19週 弧度法 第20週 三角関数の性質 第21週 三角関数のグラフ 第22週 第5章 §3 加法定理 第23週 加法定理の応用 第24週 ※後期中間試験 第25週 第4章 §1 累乗根 第26週 指数の拡張 第27週 指数関数 第28週 第4章 §2 対数 第29週 対数関数 第30週 常用対数 問題演習 ※学年末試験				
教科書	高遠節夫ほか「新基礎数学」大日本図書、高遠節夫「新基礎数学問題集」大日本図書				
参考書	三ッ廣 孝「大学・高専生のための 解法演習 基礎数学」森北出版				
関連教科	専門科目を含むほとんどの科目				
基礎知識	中学までの数学				
成績の評価方法	総合評価割合			成績は定期試験(70%)、演習など(30%)により評価する。	
	定期試験		70%		
	レポート				
	演習・小テスト		30%		
	その他				
備考				100%	

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 倉田久靖・大庭経示・堀畑佳宏 非常勤講師 浦木勇	
授業科目名	代数・幾何		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	数列、平面のベクトル、空間のベクトル、行列および行列式について学習する。				
関連する本校の学習教育目標	A		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	数列、漸化式、数学的帰納法について理解し、計算および応用ができる 平面ベクトルについて理解し、計算ができる 空間ベクトルについて理解し、計算ができる 行列について理解し、計算ができる 行列式について理解し、計算ができる				
授業の進め方とアドバイス	教科書を中心に講義を進め、教科書、問題集の間を割り当て、板書による添削を行う。質問は随時受け付ける。なお、担当教員以外に質問しても良い。				
授業内容とスケジュール	第1週 等差数列、等比数列 第2週 数列の和 第3週 漸化式と数学的帰納法 第4週 ベクトル、ベクトルの演算 第5週 ベクトルの成分 第6週 ベクトルの内積 第7週 ベクトルの平行と垂直 第8週 ※前期中間試験 第9週 ベクトルの図形への応用 第10週 直線のベクトル方程式、平面のベクトルの線形独立・線形従属 第11週 空間座標、ベクトルの成分 第12週 ベクトルの内積 第13週 直線の方程式 第14週 平面の方程式 第15週 球の方程式、空間のベクトルの線形独立・線形従属 ※前期末試験 第16週 行列の定義 第17週 行列の和・差、数との積 第18週 行列の積 第19週 転置行列 第20週 逆行列 第21週 消去法 第22週 問題演習 第23週 ※後期中間試験 第24週 逆行列と連立一次方程式 第25週 行列の階数 第26週 行列式の定義(1)(2) 第27週 行列式の性質 第28週 行列の積の行列式 第29週 行列式の展開 第30週 問題演習 ※学年末試験				
教科書	「新基礎数学」、「新線形代数」大日本図書、「新基礎数学 問題集」、「新線形代数 問題集」大日本図書				
参考書	堂平良一「大学・高専生のための 解法演習 線形代数」森北出版				
関連教科	解析I、解析II、および専門科目を含むほとんどの科目				
基礎知識	数学I、数学II				
成績の評価方法	総合評価割合			成績は定期試験(70%)、演習など(30%)により評価する。	
	定期試験		70%		
	レポート				
	演習・小テスト		30%		
	その他				
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 倉田久靖・堀畑佳宏・古清水大直	
授業科目名	微分・積分		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	数列、関数の極限と導関数、導関数の応用、定積分と不定積分、積分の計算について学習する。				
関連する本校の学習教育目標	A		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	等差数列、等比数列、漸化式と数学的帰納法について理解し応用できる 初等関数およびそれらの合成関数の導関数について理解し、応用できる 各種関数の不定積分について理解し、応用できる 各種関数の定積分について理解し、応用できる				
授業の進め方とアドバイス	教科書を中心に講義を進め、教科書、問題集の間を割り当て、板書による添削を行う。質問は随時受け付ける。なお、担当教員以外に質問しても良い。				
授業内容とスケジュール	第1週 常用対数 第2週 関数の極限 第3週 微分係数、導関数 第4週 導関数の性質 第5週 三角関数と指数関数の導関数 第6週 合成関数の導関数 第7週 逆関数の導関数、対数関数の導関数 第8週 ※前期中間試験 第9週 逆三角関数とその導関数 第10週 接線と法線、関数の増減 第11週 関数の極大・極小と最大・最小 第12週 不定形の極限 第13週 高次導関数、曲線の凹凸 第14週 媒介変数表示と微分法 第15週 平均値の定理 第16週 ※前期末試験 第17週 不定積分 第18週 定積分の定義 第19週 微分積分法の基本定理 第20週 定積分の計算、不定積分の公式 第21週 置換積分法 第22週 部分積分法 第23週 置換積分法・部分積分法の応用 第24週 いろいろな関数の積分 第25週 ※後期中間試験 第26週 図形の面積 第27週 曲線の長さ 第28週 立体の体積 第29週 媒介変数表示による図形 第30週 極座標による図形 広義積分 ※学年末試験				
教科書	「新基礎数学」「新微積分I」大日本図書、「新基礎数学 問題集」「新微積分I 問題集」大日本図書				
参考書	三ッ廣 孝「大学・高専生のための 解法演習 微積分」森北出版				
関連教科	専門科目を含むほとんどの科目				
基礎知識	数学I、数学II				
成績の評価方法	総合評価割合		成績は定期試験(70%)、演習など(30%)により評価する。		
	定期試験		70%		
	レポート				
	演習・小テスト		30%		
	その他				
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 倉田久靖・大庭経示・堀畑佳宏 非常勤講師 小浪吉史	
授業科目名	解析I		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	1変数の微分・積分の応用、偏微分、重積分について学習する。学習到達度試験対策を兼ねて、適宜1・2年生の内容の復習にも行う。				
関連する本校の学習教育目標	A		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	1変数関数の微分・積分の応用ができること。偏微分、重積分の計算とその応用ができること。1・2年の学習が定着していること。				
授業の進め方とアドバイス	教科書を中心に講義を進め、教科書、問題集の間を割り当て、板書による添削を行う。質問は随時受け付ける。なお、担当教員以外に質問しても良い。				
授業内容とスケジュール	第1週 (I) ガイダンス、4章2節 媒介変数表示による図形 第2週 (I) 極座標による図形 第3週 (I) 広義積分 第4週 (I) 変化率と積分 第5週 (II) 1章1節 多項式による近似(1) 第6週 (II) 多項式による近似(2) 第7週 (II) 数列の極限 第8週 ※前期中間試験 第9週 (II) 級数 第10週 (II) ベキ級数とマクローリン展開 第11週 (II) オイラーの公式 第12週 (II) 2章1節 2変数関数 第13週 (II) 偏導関数 第14週 (II) 全微分 第15週 (II) 合成関数の微分法 ※前期末試験 第16週 (II) 2章2節 高次偏導関数 第17週 (II) 極大・極小 第18週 (II) 陰関数の微分法 第19週 (II) 条件付き極値問題 第20週 (II) 包絡線 第21週 (復) 1年生の復習 第22週 (復) 2年生の復習 第23週 ※後期中間試験 第24週 (II) 3章1節 2重積分の定義 第25週 (II) 2重積分の計算 第26週 (II) 3章2節 極座標による2重積分 第27週 (II) 変数変換 第28週 (II) 広義積分 第29週 (II) 2重積分のいろいろな応用 第30週 演習 ※学年末試験				
教科書	新微分積分I、新微分積分II(大日本図書)、新微分積分I演習、新微分積分演習II(大日本図書)、1・2年復習問題集(本校作)				
参考書	「大学・高専生のための 解法演習 微分積分I(森北出版)、大学・高専生のための 解法演習 微分積分II(森北出版)				
関連教科	専門科目を含むほとんどの科目				
基礎知識	数学I、数学II、微分・積分、代数・幾何				
成績の評価方法	総合評価割合			成績は定期試験(70%)、演習など(20%)、到達度試験(10%)により評価する。	
	定期試験		70%		
	レポート				
	演習・小テスト		20%		
	その他		10%		
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 倉田久靖・大庭経示・古清水大直 非常勤講師 小浪吉史	
授業科目名	解析II		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	行列式の応用、線形変換、固有値とその応用、微分方程式について学習する。				
関連する本校の学習教育目標	A		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	固有値・固有ベクトルについて理解し、計算ができる。 微分方程式のタイプに応じた解法を理解し、解を求めることができる。				
授業の進め方とアドバイス	教科書を中心に講義を進め、教科書、問題集の間を割り当て、板書による添削を行う。質問は随時受け付ける。なお、担当教員以外に質問しても良い。				
授業内容とスケジュール	第1週(線)ガイダンス、行列式の展開 第2週 行列式と逆行列 第3週 連立1次方程式と行列式 第4週 行列式の図形的意味 第5週 線形変換の定義 第6週 線形変換の基本性質 第7週 合成変換と逆変換 第8週 回転を表す線形変換、直交行列と直交変換 第9週 ※前期中間試験 第10週 固有値と固有ベクトル 第11週 固有値と固有ベクトルの計算 第12週 行列の対角化 第13週 対角化可能な条件 第14週 対称行列の直交行列による対角化 第15週 対角化の応用 ※前期末試験 第16週(復)1年生の復習 第17週 2年生の復習 第18週(微)微分方程式の意味 第19週 微分方程式の解 第20週 変数分離形 第21週 同次形 第22週 1階線形微分方程式 第23週 ※後期中間試験 第24週 微分方程式の解(2階微分方程式) 第25週 線形微分方程式 第26週 定数係数斉次線形微分方程式 第27週 定数係数非斉次線形微分方程式 第28週 いろいろな線形微分方程式 第29週 線形でない2階微分方程式 第30週 演習 ※学年末試験				
教科書	高遠節夫ほか「新線形代数」「新微分積分II」大日本図書、高遠節夫ほか「新線形代数 問題集」「新微分積分II 問題集」大日本図書、米子高専編「1・2年復習問題集」				
参考書	三ッ廣 孝「大学・高専生のための 解法演習 線形代数」森北出版、三ッ廣 孝「大学・高専生のための 解法演習 微分積分II」森北出版				
関連教科	専門科目を含むほとんどの科目				
基礎知識	代数・幾何、微分・積分				
成績の評価方法	総合評価割合			成績は定期試験(70%)、演習など(20%)、到達度試験(10%)により評価する。	
	定期試験	70%			
	レポート				
	演習・小テスト	20%			
	その他	10%			
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	M:矢壁, E:井口(非常勤講師), D:河野・徳光, C:井口, A:山田・西川	
授業科目名	情報リテラシ		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	1
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	理科系の学生にとってコンピュータは学習や研究を行う上で欠かせない道具である。また、情報化社会に生きる者にとって情報を積極的に活用することが求められる。この授業では、コンピュータの基本的な操作方法やネットワークを通して情報を扱うための基礎知識の習得を目指す。				
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. パーソナルコンピュータの仕組みや基本的な用語を理解することができる。 2. オペレーティングシステムの基本操作ができるようになる。 3. 基本的なアプリケーションソフトの操作ができるようになる。 4. ネットワークや情報管理の基礎知識を理解することができる。 				
授業の進め方とアドバイス	コンピュータの基本操作、オペレーティングシステムやアプリケーションソフトの基本操作は講義のほか演習と実習を通して行う。担当教員の注意や指示に従って演習や実習、レポート作成を積極的に行ってほしい。なお、担当教員が適宜配布する授業計画等のプリントを参照のうえ保管しておくこと。				
授業内容とスケジュール	<p>前期の内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、センター端末室の利用方法などの注意事項 2. コンピュータの仕組みとセンター端末の操作方法 3. コンピュータの使い方 ----- Windowsの概要と基本操作 4. ワードプロソフトを使った文書作成方法 <p>前期期末試験</p> <p>後期の内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. インターネットの基礎 6. 電子情報の管理とネチケット 7. インターネットの使い方 ----- WWWと電子メール 8. 情報の活用と発信 9. 表計算ソフトの使い方 10. 表計算ソフトを使ったデータの整理 <p>後期末試験</p> <p>より具体的な授業計画については各担当教員が配布するプリントを参照すること。</p>				
教科書	岡田正、高橋参吉、藤原正敏 編著:ネットワーク社会における情報の活用と技術 改訂版:実教出版 若山芳三郎著:Office 2010/Windows 7版 学生のための情報リテラシ:東京電機大学出版局				
参考書	副読本、演習書については各担当教員が配布する授業計画表を参照のこと				
関連教科基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合		その他の項目にはレポート・演習・小テスト・態度等が含まれる。課題に主体的に取り組む姿勢は技術者として重要な要素であることを鑑み、出席状況や態度等も成績の評価の重要な要素とする。		
	定期試験	50%			
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他	50%			
備考			100%		

対象学科	M, E, D, C, A		担当教員	教養教育科 小林玉青, 非常勤講師 亀山道宏	
授業科目名	物理I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	登場する物理量や物理の考え方に慣れる。物理法則と現象を理解し、数式で表現する。また、それらの数式を用いて基本的な問題を確実に解くことが出来るようにする。物理は工学を習得する上では必須であり、専門科目の基礎となる。				
関連する本校の学習教育目標	A		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	<p>(1)前期中間試験まで</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効数字の桁数を数えることができる。 位置・変位、速度・加速度の意味を理解し、計算できる。 $x-t$・$v-t$・$a-t$グラフから物理量を読み取り、別のグラフを作成出来る。 等加速度直線運動の公式を用いて基本的な問題を解くことができる。 落体の運動についての基本的な問題を解くことができる。 合成速度と相対速度の意味を知り、計算できる。 いくつかの基本的な力の名称を知り、正しく図示出来る。 <p>(2)前期期末試験まで</p> <ul style="list-style-type: none"> 慣性の法則や作用・反作用の法則を説明できる。 力のつり合い、作用・反作用の法則、運動方程式を用いて、力の大きさや加速度を求めることができる。 三角比を用いて、ベクトルの合成・分解が出来る。 <p>(3)前期中間試験まで</p> <ul style="list-style-type: none"> 落体の運動、力のつりあい、運動方程式、合成・相対速度について、ベクトルを用いた計算が必要な平面運動の場合にも、標準的な問題を解くことが出来る。 仕事と仕事率を計算できる。 仕事とエネルギーの関係を理解し、それを用いて基本的な問題を解くことができる。 エネルギーの意味を知り、運動エネルギーや重力および弾性力による位置エネルギーを計算できる。 力学的エネルギー保存則の観点から標準的な問題を解くことができる。 <p>(4)後期期末試験まで</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動量・力積・反発係数を計算できる。 運動量と力積の関係をj用いて、基本的な問題を解くことができる。 運動量保存則や反発係数を用いて、一直線上の衝突に関する標準的な問題を解くことできる。 力のモーメントの意味を知り、計算できる。 剛体のつり合いに関する標準的な問題を解くことができる。 単純な剛体の重心を求めることができる。 				
授業の進め方とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> 主にプリントに書き込みながら授業を進める。 演習を多く行うが、必ず学生本人が手を動かすこと。 物理現象に対する理解を深めるため、実験を実施し、実験レポートを課す。 授業の復習効果を高めるため、授業ごとに宿題を出す。提出を強く推奨する。(小林) 理解度を確認するため、小テストを実施する。 必要事項を確実に定着させるため、定期試験対策レポートを課す。 定期試験は、授業及び定期試験対策レポートで扱った問題と同程度の内容から出題する。 基礎事項の長期定着を図るため、長期休暇には課題を出す。 物理実験室オフィスアワー：月曜日・木曜日・金曜日 15:30～19:00 上記以外の時間は、小林が随時質問を受け付ける。オフィスアワーに限らない。 定期試験2週間前からは物理実験室で放課後(平日は可能な限り毎日)、質問を受け付ける。詳細は定期試験前に案内する。 e-mail : kobayasi@yonago-k.ac.jp(小林) 				
授業内容とスケジュール	<p>【】内は使用する教科書を示す。</p> <p>第 1週： 修学ガイダンス 第 2週：【物理基礎】授業ガイダンス、桁と有効数字 第 3週：【物理基礎】位置・変位、速度・加速度 第 4週：【物理基礎】$x-t$・$v-t$・$a-t$グラフ 第 5週：【物理基礎】実験(長さの測定) 第 6週：【物理基礎】等加速度直線運動 第 7週：【物理基礎】落体の運動(自由落下、鉛直投げ上げ) 第 8週：【物理基礎】合成速度・相対速度、重力・垂直抗力・張力 第 9週： 前期中間試験 第10週：【物理基礎】力のつり合い、作用・反作用の法則、ばねの弾性力 第11週：【物理基礎】運動方程式(1物体の運動) 第12週：【物理基礎】運動方程式(2物体の運動) 第13週：【物理基礎】実験(力と加速度の関係) 第14週：【物理基礎】静止摩擦力、動摩擦力 第15週：【物理】三角比、ベクトルの分解</p> <p>前期期末試験</p> <p>第16週：【物理】平面上での力のつりあい、相対速度・合成速度 第17週：【物理】斜面上で静止する物体・運動する物体 第18週：【物理】水平投射、斜方投射 第19週：【物理基礎】仕事と仕事率 第20週：【物理基礎】仕事とエネルギーの関係 第21週：【物理基礎】運動エネルギー、重力・弾性力による位置エネルギー 第22週：【物理基礎】力学的エネルギー保存則 第23週： 後期中間試験 第24週：【物理】運動量と力積 第25週：【物理】運動量保存則 第26週：【物理】実験(運動量保存則) 第27週：【物理】反発係数 第28週：【物理】力のモーメント、剛体にはたらく力の合力 第29週：【物理】剛体のつりあい 第30週：【物理】剛体の重心</p>				

	学年末試験	
教科書	平成26年度用 高等学校教科書 物理基礎, 物理(東京書籍)	
参考書	PROGRAM物理[上][中][下](秀文堂)	
関連教科	物理II, 応用物理, 微分・積分, 代数・幾何, 化学I, 化学II, 専門科目	
基礎知識	中学数学, 数学I, 数学II	
成績の評価方法	総合評価割合	
	定期試験	70%
	レポート	20%
	演習・小テスト	10%
	その他	
		100%
備考	定期試験(4回) 70%, レポート(実験レポート, 定期試験対策レポート, 長期休暇課題) 20%, 小テスト10%で評価する。 (小林) ただし、レポートと小テストの合計が30%未満の場合は、30%を上限として、宿題提出回数に応じた点数を加算する。	

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 川邊博、小林玉青	
授業科目名	物理II		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	1学年の物理Iにつづき円運動、単振動、万有引力の法則を学び物理の基礎である『力学』が完結する。これをもとに『熱』、『波』、『電気』の分野に進む。身の周りのさまざまな自然現象に見られる共通性からその法則を理解し、自然界の真理の美しさにせまる。技術は自然法則を人類の幸福のために生かすものであるが、物理では現象や法則を数式で扱うこととその意味を理解することに重点をおく。				
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	<p>いろいろな自然現象や技術を物理法則や式に関連づけて理解し、技術における問題解決や応用・発展にこれらを適切に使えるようになることを目指す。以下に各分野における重要なキーワードをあげる。授業における到達目標は、これらや関連する用語の意味を説明でき、基本的な計算問題を解くことができることである。</p> <p>『力学』：等速円運動、単振動、万有引力の法則 『熱』：熱と仕事、熱力学第一法則 『波』：波を表す式、重ねあわせの原理、回折・干渉、反射・屈折 『電気』：キルヒホッフの法則、電場と電位、コンデンサー</p>				
授業の進め方とアドバイス	前後で学ぶことの関連が多く、考え方や計算に慣れることが大切になるため、授業で学んだことはその日のうちに復習するのが効果的である。考えをノートにまとめたり計算することは労力を要することではあるが、それに時間をかけただけ確実に授業が聞きやすくなる。毎週月曜日15時30分から16時30分までの間はオフィスアワーとして研究室(または物理実験室)に待機する。				
授業内容とスケジュール	<p>【物理基礎】および【物理】は主に用いる教科書を示す</p> <p>第1週：ガイダンス、【物理】円運動 第2週：【物理】慣性力 第3週：【物理】単振動 第4週：【物理】万有引力 第5週：【物理基礎】熱と温度 第6週：【物理基礎】熱の利用【物理】気体の性質 第7週：【物理】気体の状態変化 第8週：問題演習 第9週：前期中間試験 第10週：【物理】熱機関と熱力学第2法則 第11週：【物理基礎】波の性質 第12週：【物理基礎】音と振動 第13週：【物理】波の表し方、波の伝わり方(ホイヘンスの原理、波の回折) 第14週：【物理】波の伝わり方(反射の法則、屈折の法則)【物理】光の伝わり方(光の反射と屈折) 第15週：問題演習 前期期末試験 第16週：【物理】音の性質(ドップラー効果) 第17週：【物理】波の伝わり方(波の干渉)、音の性質(音の干渉)、光の伝わり方(「光の反射と屈折」以外) 第18週：【物理】光の回折と干渉 第19週：【物理基礎】電流と電気抵抗 第20週：【物理】電流 第21週：【物理】直流回路(「キルヒホッフの法則」まで) 第22週：問題演習 第23週：後期中間試験 第24週：【物理】直流回路(抵抗・起電力の測定) 第25週：【物理】静電気、電界(電場) 第26週：【物理】電位 第27週：【物理】電界の中の物体、コンデンサー(電気を蓄える) 第28週：【物理】コンデンサー(コンデンサーの電気容量、コンデンサーの接続) 第29週：【物理】コンデンサー(コンデンサーに蓄えられるエネルギー) 第30週：問題演習 学年末試験</p>				
教科書	物理基礎(東京書籍)、物理(東京書籍)				
参考書	PROGRAM物理[上][中][下](秀文堂)				
関連教科	応用物理I、応用物理II、専門科目				
基礎知識	物理I、数学I、数学II				
成績の評価方法	総合評価割合		成績は定期試験70%、小テスト20%、レポート10%で評価する。		
	定期試験	70%	(小林)		
	レポート	10%	ただし、レポートと小テストの合計が30%未満の場合は、30%を上限として、宿題提出回数に応じた点数を加算する。		
	演習・小テスト	20%			
	その他	100%			
備考					

対象学科	M, E, D, A		担当教員	M:八幡(非常勤), E:谷藤(前期)・田中晋(後期), D:八幡(非常勤), A:稗間(前期), 藤井雄三(後期)	
授業科目名	化学I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	<p>我々の身の周りには様々な物質があり、人類はそれら物質の性質を上手く活用しながら生活してきた。さらに各工学分野においては、材料の性質を正確に把握して、それぞれの場面に適した物質を利用する必要があるため、物質に関する知識は必須のものである。</p> <p>本講では、中学校の理科で学習した事柄の上に積み上げる方法で、技術者としてはもちろん、一般教養としても欠かせない、基礎的な化学知識を学び、基礎力を養う。また、これら基礎的な内容を発展させ、応用できるよう、演習および実験に取り組む。また、身近な化学物質の性質を知り、これらが自然環境へ及ぼす影響を考えることで、環境化学分野での倫理力を養う。</p>				
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	<p>基本的な化学の概念や原理・法則を理解し、論理的に探求する能力と態度を身につける。身近な日常生活や各専門分野での些細な化学現象も、興味をもって観察し、論理的に理解できることを目標とする。具体的には</p> <p>(1) 物質の性質や変化を原子・分子の微視的な視点から理解できる (2) 物質質量などの概念を理解し、論理的に量的関係を計算できる (3) 三態相互の変化を粒子的観点で理解できる (4) 中和反応・酸化還元反応などの化学反応に関する基本的事項を理解できる</p>				
授業の進め方とアドバイス	<p>座学が中心となるが、理解を深めるため、授業時間の2割程度を演習にあてる。さらに4回の学生実験により実際の化学現象を観察し、実験結果をプリントに記入し、レポートとして提出する。定期試験以外に4回小テストを行い、理解力を養う。オフィスアワーは別途掲示等で知らせる。オフィスアワー以外の放課後、休憩時間にも可能であれば質問を受け付ける。</p>				
授業内容とスケジュール	<p>第1週: 修学ガイダンス 第2週: 【基礎】純物質と混合物、化合物と元素、物質の三態 第3週: 【基礎】物質の三態、原子の構造 / 学生実験「混合物の分離」 第4週: 【基礎】元素の周期律と元素の性質 第5週: 【基礎】イオンとイオン結合、共有結合 第6週: 【基礎】配位結合、分子間力 第7週: 【基礎】金属結合と金属結晶の構造 / 学生実験「結晶の電気伝導」 第8週: 【基礎】化学結合と物質の分類・用途 第9週: 前期 中間試験 第10週: 【基礎】原子量・分子量・式量 第11週: 【基礎】物質質量 第12週: 【基礎】溶液の濃度、化学反応式と量的関係 第13週: 【基礎】化学反応式と量的関係 / 学生実験「分子量の測定」 第14週: 【基礎】化学の基本法則と原子説・分子説、酸と塩基 第15週: 【基礎】水素イオン濃度とpH 前期期末試験 第16週: 【基礎】中和反応と塩の生成 第17週: 【基礎】中和滴定 第18週: 【基礎】酸化と還元 第19週: 【基礎】酸化剤と還元剤 第20週: 【基礎】金属の酸化還元反応 第21週: 【基礎・化学】電池 第22週: 【基礎・化学】電気分解 第23週: 後期 中間試験 第24週: 【化学】物質の三態、状態変化 / 学生実験「電気分解」 第25週: 【化学】気体の性質、気体の状態方程式 第26週: 【化学】固体・気体の溶解度、再結晶 第27週: 【化学】蒸気圧降下と沸点上昇、浸透圧、コロイド 第28週: 【基礎・化学】固体の構造(イオン結晶、非晶質) 第29週: 【化学】反応熱と熱化学方程式 第30週: 【化学】ヘスの法則、化学反応と光 学年末試験 *【基礎】は教科書「化学基礎」を、【化学】は教科書「化学」を使用する。</p>				
教科書	竹内敬人ほか「化学基礎」, 「化学」東京書籍				
参考書	東京書籍編集部 編「ニューグローバル 化学基礎+化学」東京書籍				
関連教科	物理、M科:機械材料学、E科:電気材料、D科:材料学、A科:建築材料などをはじめとした専門科目				
基礎知識	数学(ごく基礎的な計算)、国語(読解力と明確な表現)、中学校理科など				
成績の評価方法	総合評価割合		授業での到達目標が達成され、化学に関する基礎的な概念や法則が習得できたかを評価する。成績は定期試験、実験レポート、小テスト、課題の提出状況より総合的に評価する。評価点は定期試験(70%) + 実験レポート(20%) + 小テスト(10%)の割合で算出する。		
	定期試験	70%			
	レポート	20%			
	演習・小テスト	10%			
	その他	0%			
備考	100%				

対象学科	物質工学科		担当教員	物質工学科 竹中敦司	
授業科目名	基礎化学		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	我々の身の周りには様々な物質があり、工学分野においては材料の性質を正確に把握して、それぞれの場面に適した物質を利用する必要があるため、物質に関する知識は必須のものである。 基礎化学では、技術者としてはもちろん、一般教養としても欠かせない、基礎的な化学知識を学び、基礎力を養うことで、2年次以降に設置されている専門科目に取り組める力をつける。実験は物質工学基礎実験では行わないテーマに取り組み、化学現象についての理解を深める。身近な化学物質の性質を知り、これらが自然環境へ及ぼす影響を考えることで、環境化学分野での倫理力も養いたい。				
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	<p>基本的な化学の概念や原理・法則を理解し、論理的に探求する能力と態度を身につける。身近な日常生活や各専門分野での些細な化学現象も、興味をもって観察し、論理的に理解できることを目標とする。具体的には</p> <p>(1) 物質の性質や変化を原子・分子の微視的な視点から理解できる (2) 物質質量などの概念を理解し、論理的に量的関係を計算できる (3) 三態相互の変化を粒子的観点で理解できる (4) 中和反応・酸化還元反応などの化学反応に関する基本的事項を理解できる (5) 気体、溶液の性質に関する基本的な計算ができる</p>				
授業の進め方とアドバイス	座学が中心となるが、理解を深めるため、授業時間の2割程度を演習にあてる。さらに4回の学生実験により実際の化学現象を観察し、実験結果をプリントに記入し、レポートとして提出する。定期試験以外に4回小テストを行い、理解力を養う。オフィスアワーは別途掲示等で知らせる。オフィスアワー以外の放課後、休憩時間にも可能であれば質問を受け付ける。				
授業内容とスケジュール	第1週: 修学ガイダンス 第2週: 【基礎】純物質と混合物、化合物と元素、物質の三態 第3週: 【基礎】物質の三態、原子の構造 / 学生実験「混合物の分離」 第4週: 【基礎】元素の周期律と元素の性質 第5週: 【基礎】イオンとイオン結合、共有結合 第6週: 【基礎】配位結合、分子間力 第7週: 【基礎】金属結合と金属結晶の構造 / 学生実験「結晶の電気伝導」 第8週: 【基礎】化学結合と物質の分類・用途 第9週: 前期 中間試験 第10週: 【基礎】原子量・分子量・式量 第11週: 【基礎】物質質量 第12週: 【基礎】物質質量、溶液の濃度 第13週: 【基礎】化学反応式と量的関係 / 学生実験「分子量の測定」 第14週: 【基礎】化学反応式と量的関係 / 化学の基本法則と原子説・分子説 第15週: 【基礎】水素イオン濃度とpH、酸と塩基 前期期末試験 第16週: 【基礎】中和反応と塩の生成、中和滴定 第17週: 【基礎】酸化と還元 第18週: 【基礎】酸化剤と還元剤 第19週: 【基礎】金属の酸化還元反応 第20週: 【基礎・化学】電池 第21週: 【基礎・化学】電池、電気分解 第22週: 【基礎・化学】電気分解 / 学生実験「電気分解」 第23週: 後期 中間試験 第24週: 【化学】物質の三態、状態変化 第25週: 【化学】気体の性質、気体の状態方程式 第26週: 【化学】固体・気体の溶解度、再結晶 第27週: 【化学】蒸気圧降下と沸点上昇、浸透圧、コロイド 第28週: 【基礎・化学】固体の構造(イオン結晶、非晶質) 第29週: 【化学】反応熱と熱化学方程式 第30週: 【化学】ヘスの法則、化学反応と光 学年末試験 *【基礎】は教科書「化学基礎」を、【化学】は教科書「化学」を使用する。				
教科書	竹内敬人ほか「化学基礎」、「化学」東京書籍				
参考書	東京書籍編集部 編「ニューグローバル 化学基礎+化学」東京書籍				
関連教科	物理、全専門科目				
基礎知識	数学、国語など				
成績の評価方法	総合評価割合		授業での到達目標が達成され、化学に関する基礎的な概念や法則が習得できたかを評価する。成績は定期試験、実験レポート、小テストをもとに総合的に評価する。評価点は定期試験(70%)+実験レポート(20%)+小テスト(10%)の割合で算出する。		
	定期試験	70%			
	レポート	20%			
	演習・小テスト	10%			
	その他	0%			
備考	100%				

対象学科	M, E, D, A		担当教員	M:八幡(非常勤), E:田中晋(前期)・藤井雄(後期), D:八幡(非常勤), A:藤井貴(前期), 櫻間(後期)	
授業科目名	化学II		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	<p>我々の身の周りには様々な物質があり、人類はそれら物質の性質を上手く活用しながら生活してきた。さらに各工学分野においては、材料の性質を正確に把握して、それぞれの場面に適した物質を利用するため、物質に関する知識は必須のものである。</p> <p>本講では、各物質のもつ性質や特徴的な反応を系統的に確認し、技術者としてはもちろん、一般教養としても欠かせない、基礎的な化学知識を学んで、基礎力を養う。また、これら基礎的な内容を発展させ、応用できるよう、演習および実験に取り組む。また、身近な化学物質の性質を知り、これらが自然環境へ及ぼす影響を考えることで、環境化学分野での倫理力を養う。</p>				
関連する本校の学習教育目標	(A)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	<p>基本的な化学の概念や原理・法則を理解し、論理的に探求する能力と態度を身につける。身近な日常生活や各専門分野での些細な化学現象も、興味をもって観察し、論理的に理解できることを目標とする。具体的には</p> <p>(1) 周期表をもとに、物質の性質を系統的に理解できる (2) 無機化合物の反応を理解し、系統的な金属イオンの分離などに応用できる (3) 分子構造および官能基による各有機化合物の特性を体系的に理解できる (4) 物質の安全性へ関心を寄せ、環境問題に関する基礎的な知識をもつこと</p>				
授業の進め方とアドバイス	<p>座学が中心となるが、理解を深めるため授業時間の1割程度は演習にあてる。さらに学生実験などにより実際の化学現象を観察し、考察を行ってもらう。また、課題としてプリントや問題集「ニューグローバル」を課す。これらは自らの力で解き、理解を深めること。また、理解度を確認するため小テストを行う。</p> <p>担当教員のオフィスアワーは別途掲示等で知らせる。オフィスアワー以外の放課後、休憩時間にも可能であれば質問を受け付ける。</p>				
授業内容とスケジュール	<p>第1週: ガイダンス・周期表と元素の性質 第2週: 18族(水素と希ガス) 第3週: 17族(ハロゲンとその化合物) 第4週: 16族(酸素・硫黄) 第5週: 16族(硫黄の化合物) 第6週: 15族(窒素とその化合物) 第7週: 15族(リンとその化合物) * 学生実験「硝酸と窒素酸化物」</p> <p>第8週: 14族(炭素・ケイ素とその化合物) 第9週: <前期中間試験></p> <p>第10週: 1族(アルカリ金属とその化合物) 第11週: 2族(2族元素とその化合物) 第12週: 2族(カルシウムの化合物) * 学生実験「アルカリ土類金属」</p> <p>第13週: 1・2族以外の典型元素(アルミニウム・亜鉛とその化合物) 第14週: 1・2族以外の典型元素(水銀・スズ・鉛とその化合物) 第15週: 遷移元素(3~11族)の特徴、錯イオン、鉄とその化合物 <前期期末試験></p> <p>第16週: 銅・銀とその化合物 第17週: クロム・マンガンとその化合物 第18週: 金属イオンの分離と確認 * 学生実験「金属イオンの分離」</p> <p>第19週: 有機化合物の特徴 第20週: 有機化合物の構造式の決定 第21週: 飽和炭化水素(アルカン) 第22週: 不飽和炭化水素(アルケン) 第23週: <後期中間試験></p> <p>第24週: 不飽和炭化水素(アルキン) 第25週: アルコールとエーテル 第26週: アルデヒドとケトン * 学生実験「アルデヒドの性質」</p> <p>第27週: カルボン酸 第28週: エステル・油脂・セッケン 第29週: 芳香族炭化水素 第30週: 高分子化合物 <学年末試験></p>				
教科書	竹内敬人ほか「化学」東京書籍				
参考書	東京書籍編集部 編「ニューグローバル 化学基礎+化学」東京書籍				
関連教科	物理、M科:機械材料学、E科:電気材料、D科:材料学、A科:建築材料など				
基礎知識	数学(ごく基礎的な計算)、国語(読解力と明確な表現)、中学校理科など				
成績の評価方法	総合評価割合			授業での到達目標が達成され、化学に関する基礎的な概念や法則が習得できたかを評価する。成績は定期試験、実験レポート、小テスト、課題の提出状況より総合的に評価する。評価点は定期試験(70%) + 実験レポート(20%) + 小テスト(10%)の割合で算出する。	
	定期試験		70%		
	レポート		20%		
	演習・小テスト		10%		
	その他		0%		
			100%		
備考					

対象学科	物質工学科		担当教員	物質工学科 田原麻里	
授業科目名	生物学		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この講義は本校の教育目標のうち「基礎力」を養う科目である。生物は生物系科目の基礎となる重要な科目である。生物学的現象のうち物質工学に関連した基礎知識(細胞の構造と機能、生体物質と代謝、核酸と遺伝など)を学習し、工学的に発展させるための基礎知識を習得するものである。また、あらゆる生物によって構成される生態系について学習することにより、生態系の平衡と維持、環境保全の重要性についての認識を深める。				
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE 学習教育目標			
到達目標	生物の学習範囲を、生物の関連教科に関係する分野の生物現象を理解し、工学的応用に発展させる。具体的には (1)生物の基本的な単位である細胞の構造と働きについて理解することができる。 (2)生体を構成する物質と働きについて理解することができる。 (3)生物体内での化学反応のうち呼吸に関する反応を理解する。 (4)遺伝の法則、遺伝現象について理解する。 (5)生態系の維持、環境保全の重要性を理解する。				
授業の進め方とアドバイス	座学中心でおこなうが、説明を補ったり、具体的な例を示したりするのに「生物図説」を使用する。学習内容を自分の身体にあてはめて考えると興味もて、理解しやすい。				
授業内容とスケジュール	第1週: 修学ガイダンス 第2週: 生物の多様性と共通性 第3週: 生命活動とエネルギー1 第4週: 生命活動とエネルギー2 第5週: 生物と遺伝子 第6週: 遺伝情報の分配 第7週: 遺伝情報とタンパク質の合成1 第8週: 遺伝情報とタンパク質の合成2 第9週: 前期中間試験 第10週: 体内環境1 第11週: 体内環境2 第12週: 体内環境の調節1 第13週: 体内環境の調節2 第14週: 免疫1 第15週: 免疫2 前期末試験 第16週: 生物の生殖と配偶子の形成1 第17週: 生物の生殖と配偶子の形成2 第18週: 動物の発生1 第19週: 動物の発生2 第20週: 動物の発生のしくみ 第21週: 発生をつかさどる遺伝子 第22週: 植物の発生 第23週: 後期中間試験 第24週: 動物の刺激の受容と反応1 第25週: 動物の刺激の受容と反応2 第26週: 動物の刺激の受容と反応3 第27週: 動物の行動1 第28週: 動物の行動2 第29週: 植物の環境応答1 第30週: 植物の環境応答2 学年末試験				
教科書	湯浅 誠他「生物基礎」,「生物」東京書籍				
参考書	石川 統 他編 ダイナミックワイド「図説生物」統合版 東京書籍				
関連教科	微生物(2、3年)、生化学(3、4年)、分子生物学(5年)、細胞工学(5年)				
基礎知識	化学				
成績の評価方法	総合評価割合			授業での到達目標が達成され、生物の基本的な構造、機能及び現象が習得されたかを評価する。成績は定期試験(80%)および課題提出(20%)により総合的に評価する。原則として再試は行わない。	
	定期試験	80%			
	レポート	20%			
	演習・小テスト				
	その他				
備考				100%	

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 池本幸雄・南 雅樹・大野政人	
授業科目名	保健体育I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この授業は本校の教育目標のうち「基礎力」、「応用力」を養う科目である。具体的には、各運動種目や体力テストの実践を通して、身体運動文化に対する科学的理解・安全管理の基礎知識を学習する。また、健康維持・体力向上を図り、課題解決能力の獲得や学生の相互理解(コミュニケーション能力)を深めさせる。				
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	技術者としての「基礎力」、「応用力」を養うため以下の点を目標とする。 (1) 身体活動・体力・健康生活に関する基礎知識を理解することができる。 (2) (1)の知識に基づき、具体的な目標の設定や日常生活における積極的な運動の実践ができること。 (3) 自己の体力・身体運動を客観的な視点から捉え、運動技能・実践能力の向上に努力すること。				
授業の進め方とアドバイス	実技授業中にも、適宜講義内容を交えて行う。 (1) 時間厳守 ※遅刻3回で欠席1回と換算する。 (2) 原則として病気・怪我による見学は出席としない。 (3) 服装の徹底(規程の体育シャツを着用) (4) 担当教員の指導・指示を厳守すること(安全性の徹底)。 (5) 屋外で行われる種目は天候、実施場所等の関係により、授業内容を入れ替えるなど変更の可能性がある。				
授業内容とスケジュール	第1週: 修学ガイダンス 第2週: 軽運動・ストレッチほか 第3週: 体力テスト 第4週: 体力テスト 第5週: 陸上競技(走運動:短距離走) 第6週: 陸上競技(走運動:ハードル走) 第7週: 陸上競技(走運動:リレー) 第8週: 前期中間試験:実技試験 第9週: 講義(健康・体力の構造) 第10週: 水泳(ガイダンス、泳法・泳力の確認) 第11週: 水泳(基本泳法の習得:クロール) 第12週: 水泳(基本泳法の習得:クロール) 第13週: 水泳(基本泳法の習得:平泳ぎ) 第14週: 水泳(基本泳法の習得:平泳ぎ) 第15週: 講義(体力診断、肥満と生活習慣病) 前期末試験:筆記試験 第16週: サッカー(基本技術の習得:ドリブル) 第17週: サッカー(基本技術の習得:キック) 第18週: サッカー(ゲーム戦術) 第19週: サッカー(ルールの習得、ゲーム形式) 第20週: 講義(精神の健康) 第21週: バレーボール(基本技術の習得:パス) 第22週: バレーボール(基本技術の習得:サーブ) 第23週: 後期中間試験:実技試験 第24週: バレーボール(ゲーム戦術) 第25週: バレーボール(ルールの習得、ゲーム形式) 第26週: バドミントン(基本技術の習得)・フライングディスク(基本技術の習得) 第27週: バドミントン(基本技術の習得)・フライングディスク(基本技術の習得) 第28週: バドミントン(ルールの習得、ゲーム形式)・フライングディスク(応用) 第29週: バドミントン(ゲーム形式)・フライングディスク(応用) 第30週: 講義(喫煙と健康、性感染症とその予防) 学年末試験:筆記試験				
教科書	カラー・ワイド・スポーツ(大修館書店)、健康・スポーツ科学の基礎(杏林書院)				
参考書	新保健体育(大修館書店)				
関連教科					
基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合		授業での到達目標が達成され、基本技能の習得と基本的な知識の理解、および簡単な応用力、実践力が養われたかを評価する。 成績は定期試験の得点、課題レポートの提出、実技・スキルテストの得点、授業時中の態度や意欲(積極性、協調性)および技能を得意化し、その合計によって評価する。さらに、体育実技は実際に体を動かすことによって授業内容を理解・学習するため、出席は極めて重視される。評価基準は60点以上。		
	定期試験	40%			
	レポート	10%			
	演習・小テスト	20%			
	その他	30%			
備考	100%				

対象学科	全学科男子		担当教員	非常勤講師 宮崎浩樹	
授業科目名	保健体育I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	1
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この授業は本校の教育目標のうち「基礎力」、「応用力」を養う科目である。具体的には、我が国発祥の武道である柔道を学び、その精神性と相手の動きに対応した攻防、および安全性確保・自護の技能習得を通して、身体運動文化に対する科学的理解・安全管理の基礎知識を学習する。また、健康維持・体力向上を図り、課題解決能力の獲得や学生の相互理解(コミュニケーション能力)を深めさせる。				
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	技術者としての「基礎力」、「応用力」を養うため以下の点を目指とする。 1) 柔道の基本動作と对人的技能を身につけることができる。 2) 相手を尊重する態度と正しい礼儀作法を身につけることができる。 3) 自己の技能の程度に応じて目標を決め、互いに協力して自主的、計画的に練習を行う 4) 審判法を理解する 5) 柔道の歴史とその種目特性を理解する				
授業の進め方とアドバイス	1) 時間厳守 ※遅刻3回で欠席1回と換算する。 2) 原則として病氣・怪我による見学は出席としない。 3) 服装の徹底(柔道着を着用) 4) 担当教員の指導・指示を厳守すること(安全性の徹底のため)。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス(柔道着の着方を含めて) 第2週: 基本動作(姿勢と組み方: 自然本体, 左右自然体, 自護体, 左右自護体) 第3週: 基本動作(受身: 前受身, 横受身, 後受身) 第4週: 基本動作(受身: 前受身, 横受身, 後受身) 第5週: 基本動作(崩しと体さばき: 前後左右, 斜め左右・斜め前後, 前さばき, 後さばき) 第6週: 基本動作(崩しと体さばき: 前後左右, 斜め左右・斜め前後, 前さばき, 後さばき) 第7週: 投げ技(手技: 背負い投げ, 体落とし) 第8週: 投げ技(手技: 背負い投げ, 体落とし) 第9週: 投げ技(腰技: 浮腰, 大腰, 跳腰, 払腰, 釣り込み腰) 第10週: 投げ技(腰技: 浮腰, 大腰, 跳腰, 払腰, 釣り込み腰) 第11週: 投げ技(足技: 膝車, 支え釣り込み足, 出足払い, 送り足払い) 第12週: 投げ技(足技: 大内刈り, 小内刈り, 小外刈り, 大外刈り, 内股) 第13週: 固め技(抑え技: 袈裟固, 横四方固, 上四方固, 縦四方固, 肩固) 第14週: 固め技(抑え技: 袈裟固, 横四方固, 上四方固, 縦四方固, 肩固) 第15週: 実技テスト 前期末試験 第16週: 固め技(抑え技: 袈裟固, 横四方固, 上四方固, 縦四方固, 肩固) 第17週: 固め技(関節技: 腕がらみ, 腕ひしぎ十字固) 第18週: 固め技(絞め技: 送り襟絞め, 並十字絞め) 第19週: 技の連続変化(投げ技の連続: 体落→体落, 体落→大内) 第20週: 技の連続変化(投げ技の連続: 体落→小内刈り, 小内刈り→背負い投げ) 第21週: 技の連続変化(相手の技を返す: 大外刈りを返す, 内股すかし) 第22週: 技の連続変化(相手の技を返す: 大外刈りを返す, 内股すかし) 第23週: 技の連続変化(投げ技から固め技: 小内刈り→縦四方固) 第24週: 技の連続変化(投げ技から固め技: 小内刈り→縦四方固) 第25週: 試合・審判法 第26週: 試合・審判法 第27週: 試合・審判法 第28週: 試合・審判法 第29週: 試合・審判法 第30週: 実技テスト 学年末試験				
教科書	カラー・ワイド・スポーツ(大修館書店), テキスト保健体育(大修館書店)				
参考書					
関連教科基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合		授業での到達目標が達成され、基本技能の習得と基本的な知識の理解、および簡単な応用力、実践力が養われたかを評価する。成績は実技・スキルテストの得点、授業時中の態度や意欲(積極性、協調性)および関連する技能を得点化し、その合計によって評価する。さらに、体育実技は実際に体を動かすことによって授業内容を理解・学習するため、出席は極めて重視される。評価基準は60点以上。		
	定期試験				
	レポート				
	演習・小テスト	60%			
	その他	40%			
備考			100%		

対象学科	全学科女子		担当教員	非常勤講師 定光真理子	
授業科目名	保健体育I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	1
区分	必修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この授業は本校の教育目標のうち「基礎力」、「応用力」を養う科目である。具体的には、創作ダンスやフォークダンスなどの踊りを通して、身体表現の芸術文化的理解を深め、健康や安全管理の基礎知識を学習する。また、基本的な技能習得やグループでの活動を通して、運動の楽しさと学生相互の仲間づくりをねらいとしている。				
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	技術者としての「基礎力」、「応用力」を養うため以下の点を目標とする。 (1) 身体活動・体力・健康生活に関する基礎知識を理解することができる。 (2) (1)の知識に基づき、具体的な目標の設定や日常生活における積極的な運動の実践ができること。 (3) 自己の体力・身体運動を客観的な視点から捉え、運動技能・実践能力の向上に努力すること。				
授業の進め方とアドバイス	1) 時間厳守 ※遅刻3回で欠席1回と換算する。 2) 原則として病気・怪我による見学は出席としない。 3) 服装の徹底(規程の体育ジャージを着用) 4) 適宜、ライフステージにおける健康と運動の関連性や環境、栄養、疾病、精神衛生などについて学習させ、レポート(自己学習)を課す。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業ガイダンス 第2週: 体づくり運動、基本のステップ 第3週: フォークダンス(世界の国々の伝統的な民族舞踊を楽しむ) 第4週: フォークダンス(世界の国々の伝統的な民族舞踊を楽しむ) 第5週: フォークダンス(リズムカルな舞踊の動きと柔軟性を養う) 第6週: エアロビク(リズムにあわせて有酸素運動を楽しむ) 第7週: エアロビク(リズムにあわせて有酸素運動を楽しむ) 第8週: 創作ダンス(グループで小作品をつくる) 第9週: 創作ダンス(グループで小作品をつくる) 第10週: 創作ダンス(グループで小作品をつくる) 第11週: 発表と観賞(お互いの作品を見せ合って交流し合う) 第12週: 日本の民謡(よさこいソーラン節) 第13週: 日本の民謡(よさこいソーラン節) 第14週: 日本の民謡(よさこいソーラン節) 第15週: 日本の民謡(発表) 前期末試験 第16週: ダンスについて課題レポートの作成 第17週: 現代的なリズムのダンス、基本のステップ 第18週: 現代的なリズムのダンス、応用のステップ 第19週: 創作ダンス(グループで創作活動) 第20週: 創作ダンス(グループで創作活動) 第21週: 創作ダンス(グループで創作活動) 第22週: 創作ダンス(グループで創作活動) 第23週: 創作ダンス(グループで創作活動) 第24週: 創作ダンス(発表と観賞) 第25週: 創作ダンスについて課題レポートの作成 第26週: 体力を高める運動(エアロビク、現代的なリズムのダンスなど) 第27週: 体力を高める運動(エアロビク、現代的なリズムのダンスなど) 第28週: 体力を高める運動(エアロビク、現代的なリズムのダンスなど) 第29週: 体力を高める運動(エアロビク、現代的なリズムのダンスなど) 第30週: 課題レポートの作成 学年末試験				
教科書	カラー・ワイド・スポーツ(大修館書店), テキスト保健体育(大修館書店)				
参考書					
関連教科					
基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合		到達目標が達成され、基本技能の習得と基本的な知識の理解、および簡単な応用力・実践力がどの程度養われたかを評価する。成績は課題(創作ダンス)の完成度、授業時間中の態度や意欲(積極性、協調性)および関連する技能を得点化し、その合計によって評価する。さらに、体育実技は実際に体を動かすことによって授業内容を理解・学習するため、出席は極めて重視される。評価基準は60点以上。		
	定期試験				
	レポート				
	演習・小テスト	70%			
	その他	30%			
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 池本幸雄・南 雅樹・大野政人, 非常勤講師 定光真理子	
授業科目名	保健体育II		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この授業は本校の教育目標のうち「基礎力」、「応用力」を養う科目である。具体的には、各運動種目や体力テストの実践を通して、身体運動文化に対する科学的理解・安全管理の基礎知識を学習する。また、健康維持・体力向上を図り、課題解決能力の獲得や学生の相互理解(コミュニケーション能力)を深めさせる。				
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	技術者としての「基礎力」、「応用力」を養うため以下の点を目指とする。 (1) 身体活動・体力・健康生活に関する基礎知識を理解することができる。 (2) (1)の知識に基づき、具体的な目標の設定や日常生活における積極的な運動の実践ができること。 (3) 自己の体力・身体運動を客観的な視点から捉え、運動技能・実践能力の向上に努力すること。				
授業の進め方とアドバイス	実技授業中にも、適宜講義内容を交えて行う。 (1) 時間厳守 ※遅刻3回で欠席1回と換算する。 (2) 原則として病気・怪我による見学は出席としない。 (3) 服装の徹底(規程の体育シャツを着用) (4) 担当教員の指導・指示を厳守すること(安全性の徹底)。 (5) 屋外で行われる種目は天候、実施場所等の関係により、授業内容を入れ替えるなど変更の可能性がある。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス、軽運動・ストレッチ 第2週: 体力テスト 第3週: 体力テスト 第4週: 体力テスト 第5週: 陸上競技(跳運動: 走幅跳) 第6週: 陸上競技(跳運動: 走幅跳、三段跳) 第7週: 陸上競技(跳運動: 走高跳) 第8週: 前期中間試験: 実技試験 第9週: 講義(運動の意義、運動のしくみ(1)) 第10週: 水泳(ガイダンス、泳法と泳力の確認) 第11週: 水泳(基本泳法の習得: 背泳ぎ) 第12週: 水泳(基本泳法の習得: 背泳ぎ) 第13週: 水泳(基本泳法の習得: 平泳ぎ) 第14週: 水泳(メドレー: 各泳法×25m) 第15週: 講義(運動のしくみ(2)) 前期末試験: 筆記試験 第16週: ソフトテニス(基本技術の習得: ストローク) 第17週: ソフトテニス(基本技術の習得: ストローク、ボレー) 第18週: ソフトテニス(ゲーム戦術の習得) 第19週: ソフトテニス(ルールの習得、ゲーム形式) 第20週: ソフトボール(基本技術の習得: 投動作) 第21週: ソフトボール(基本技術の習得: 補給動作、打撃動作) 第22週: ソフトボール(ゲーム戦術の習得) 第23週: 後期中間試験: 実技試験 第24週: ソフトボール(ゲーム形式) 第25週: 講義(トレーニング方法) 第26週: バスケットボール(基本技術の習得: パス、ドリブル)・卓球(基本技術の習得) 第27週: バスケットボール(基本技術の習得: シュート)・卓球(基本技術の習得) 第28週: バスケットボール(ゲーム戦術の習得)・卓球(ゲーム形式: シングルス) 第29週: バスケットボール(ゲーム戦術の習得)・卓球(ゲーム形式: ダブルス) 第30週: 講義(栄養と食生活) 学年末試験: 筆記試験				
教科書	カラー・ワイド・スポーツ(大修館書店), 健康・スポーツ科学の基礎(杏林書院)				
参考書	新保健体育(大修館書店)				
関連教科					
基礎知識	保健体育1				
成績の評価方法	総合評価割合		授業での到達目標が達成され、基本技能の習得と基本的な知識の理解、および応用力、実践力が養われたかを評価する。 成績は定期試験の得点、課題レポートの提出、実技・スキルテストの得点、業時中の態度や意欲(積極性、協調性)および技能を得点化し、その合計によって評価する。さらに、体育実技は実際に体を動かすことによって授業内容を理解・学習するため、出席は極めて重視される。評価基準は60点以上。		
	定期試験	40%			
	レポート	10%			
	演習・小テスト	20%			
	その他	30%			
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 池本幸雄・南 雅樹・大野政人	
授業科目名	保健体育III		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この授業は本校の教育目標のうち「基礎力」、「応用力」を養う科目である。具体的には、各運動種目や体力テストの実践を通して、身体運動文化に対する科学的理解・安全管理の基礎知識を学習する。また、健康維持・体力向上を図り、課題解決能力の獲得や学生の相互理解(コミュニケーション能力)を深めさせる。				
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE 学習教育目標			
到達目標	技術者としての「基礎力」、「応用力」を養うため以下の点を目標とする。 (1) 身体活動・体力・健康生活に関する基礎知識を理解することができる。 (2) (1)の知識に基づき、具体的な目標の設定や日常生活における積極的な運動の実践ができること。 (3) 自己の体力・身体運動を客観的な視点から捉え、運動技能・実践能力の向上に努力すること。				
授業の進め方とアドバイス	実技授業中にも、適宜講義内容を交えて行う。 (1) 時間厳守 ※遅刻3回で欠席1回と換算する。 (2) 原則として病気・怪我による見学は出席としない。 (3) 服装の徹底(規程の体育シャツを着用) (4) 担当教員の指導・指示を厳守すること(安全性の徹底)。 (5) 屋外で行われる種目は天候、実施場所等の関係により、授業内容を入れ替えるなど変更の可能性がある。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス、軽運動・ストレッチ 第2週: 体力テスト 第3週: 体力テスト 第4週: 体力テスト 第5週: 陸上競技(投運動: 砲丸投) 第6週: 陸上競技(投運動: 砲丸投、円盤投) 第7週: 陸上競技(投運動: ヤリ投) 第8週: 前期中間試験: 実技試験 第9週: 講義(運動と心理) 第10週: 水泳(ガイダンス、泳法・泳力の確認) 第11週: 水泳(3泳法の練習、潜水) 第12週: 水泳(3泳法の練習、スタート) 第13週: 水泳(メドレー: 各泳法×50m) 第14週: 講義(運動と外傷、障害) 第15週: テニス(基本技術の習得: ストローク) 前期末試験: 筆記試験 第16週: テニス(基本技術の習得: ボレー、スマッシュ) 第17週: テニス(基本技術の習得: スープ、ゲーム戦術) 第18週: テニス(ルールの習得、ゲーム形式: シングルス) 第19週: テニス(ゲーム形式: ダブルス) 第20週: バレーボール(基礎から応用技術の習得) 第21週: バレーボール(基礎から応用技術の習得) 第22週: バレーボール(ゲーム形式) 第23週: 後期中間試験: 実技試験 第24週: バレーボール(ゲーム形式) 第25週: 講義(運動・スポーツの効果(1)) 第26週: バasketボール(基礎から応用技術の習得)・フットサル(基本技術の習得) 第27週: Basketball(基礎から応用技術の習得)・フットサル(基本技術の習得) 第28週: Basketball(ゲーム形式)・フットサル(ゲーム形式) 第29週: Basketball(ゲーム形式)・フットサル(ゲーム形式) 第30週: 講義(運動・スポーツの効果(2)) 学年末試験: 筆記試験				
教科書	カラー・ワイド・スポーツ(大修館書店), 健康・スポーツ科学の基礎(杏林書院)				
参考書	新保健体育(大修館書店)				
関連教科					
基礎知識	保健体育1、保健体育2				
成績の評価方法	総合評価割合		授業での到達目標が達成され、基本技術の習得と基本的な知識の理解、および簡単な応用力、実践力が養われたかを評価する。 成績は定期試験の得点、課題レポートの提出、実技・スキルテストの得点、業時中の態度や意欲(積極性、協調性)および技能を得点化し、その合計によって評価する。さらに、体育実技は実際に体を動かすことによって授業内容を理解・学習するため、出席は極めて重視される。評価基準は60点以上。		
	定期試験	40%			
	レポート	10%			
	演習・小テスト	20%			
	その他	30%			
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 池本 幸雄・南 雅樹・大野 政人	
授業科目名	保健体育IV		科目コード		
学年	4	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態	実技	単位種別	履修
授業概要	この授業は本校の教育目標のうち「基礎力」、「応用力」を養う科目である。具体的には、各運動種目や体力テストの実施を通して、身体運動文化に対する科学的理解・安全管理の基礎および応用知識を学習する。また、健康維持・体力向上を図り、将来にわたり継続的にスポーツを楽しむ(生涯スポーツへの導入)ための意識・習慣、実践力を高める。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:A-1 建築PRG:A-1, D-2		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:c 建築PRG:c, g	
到達目標	技術者としての「基礎力」、「応用力」を養うため以下の点を目標とする。 (1) 身体活動・体力・健康生活に関する基礎および応用知識を理解すること。 (2) 自己の身体運動を客観的な視点から捉え、運動技能・実践能力の向上に努力ができること。 (3) 生涯スポーツに繋がる計画・企画・実践ができること。				
授業の進め方とアドバイス	実技授業中にも、適宜講義内容を交えて行う。 (1) 時間厳守 ※遅刻3回で欠席1回と換算する。 (2) 原則として病氣・怪我による見学は出席としない。 (3) 服装の徹底(規程の体育ジャージを着用) (4) 担当教員の指導・指示を厳守すること(安全性の徹底)。 (5) 屋外で行われる種目は天候、実施場所等の関係により、授業内容を入れ替えるなど変更の可能性がある。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス、軽運動・ストレッチ 第2週: 体力テスト 第3週: 体力テスト 第4週: 体力テスト 第5週: 陸上競技(混成競技) 第6週: 陸上競技(混成競技) 第7週: テニス(基本および応用技術の確認) 第8週: 前期中間試験:実技試験 第9週: テニス(ゲーム形式) 第10週: テニス(ゲーム形式) 第11週: 水泳(ガイダンス、泳法・泳力の確認) 第12週: 水泳(メドレー、水球) 第13週: 水泳(水球、シュケリング) 第14週: 講義 第15週: ゴルフ(基本後術の習得:スタンス、グリップ) 前期末試験:筆記試験または実技試験 第16週: ゴルフ(基本技術の習得:スウィング) 第17週: ゴルフ(校外施設を利用した実践的練習) 第18週: ゴルフ(校外施設を利用した実践的練習) 第19週: ゴルフ(校外施設を利用した実践的練習) 第20週: サッカー(基本および応用技術の確認)・ソフトボール(基本および応用技術の確認) 第21週: サッカー(ゲーム形式)・ソフトボール(ゲーム形式) 第22週: サッカー(ゲーム形式)・ソフトボール(ゲーム形式) 第23週: 後期中間試験:実技試験 第24週: バレーボール(基本および応用技術の確認)・卓球(基本および応用技術の確認) 第25週: バレーボール(ゲーム形式)・卓球(ゲーム形式) 第26週: バレーボール(ゲーム形式)・卓球(ゲーム形式) 第27週: バスケットボール(基本および応用技術の確認)・バドミントン(基本および応用技術の確認) 第28週: バスケットボール(ゲーム形式)・バドミントン(ゲーム形式) 第29週: バスケットボール(ゲーム形式)・バドミントン(ゲーム形式) 第30週: 講義 学年末試験:筆記試験				
教科書	カラー・ワイド・スポーツ(大修館書店), 健康・スポーツ科学の基礎(杏林書院)				
参考書					
関連教科					
基礎知識	保健体育1、保健体育2、保健体育3				
成績の評価方法	総合評価割合		授業での到達目標が達成され、基本および応用技術の習得と基本的な知識の理解を踏まえた応用力、実践力が養われたかを評価する。成績は定期試験の得点、課題レポートの提出、実技・スキルテストの得点、業時中の態度や意欲(積極性、協調性)および技能を得点化し、その合計によって評価する。さらに、体育実技は実際に体を動かすことによって授業内容を理解・学習するため、出席は極めて重視される。評価基準は60点以上。		
	定期試験	40%			
	レポート	10%			
	演習・小テスト	10%			
	その他	40%			
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 池本幸雄・南 雅樹・大野政人	
授業科目名	保健体育V		科目コード		
学年	5	開講時期	通年	単位数	1
区分	必履修	授業の形態	実技	単位種別	履修
授業概要	この授業は本校の教育目標のうち「基礎力」、「応用力」を養う科目である。具体的には、各運動種目や体力テストの実施を通して、身体運動文化に対する科学的理解・安全管理の基礎および応用知識を学習する。また、健康維持・体力向上を図り、将来にわたり継続的にスポーツを楽しむ(生涯スポーツへの導入)ための意識・習慣・実践力を高める。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:A-1 建築PRG:A-1, D-2		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:c 建築PRG:c, g	
到達目標	技術者としての「基礎力」、「応用力」を養うため以下の点を目標とする。 (1) 身体活動・体力・健康生活に関する基礎および応用知識を理解すること。 (2) 自己の身体運動を客観的な視点から捉え、運動技能・実践能力の向上に努力ができること。 (3) 生涯スポーツに繋がる計画・企画・実践ができること。				
授業の進め方とアドバイス	実技授業中にも、適宜講義内容を交えて行う。 (1) 時間厳守 ※遅刻3回で欠席1回と換算する。 (2) 原則として病気・怪我による見学は出席としない。 (3) 服装の徹底(規程の体育ジャージを着用) (4) 担当教員の指導・指示を厳守すること(安全性の徹底)。 (5) 実施する種目は天候、実施場所等の関係により、授業内容を入れ替えるなど変更の可能性がある。				
授業内容とスケジュール	第1週:授業のガイダンス(授業運営や種目の選択) 第2週～第14週 【前期】:下記の種目について、選択制を導入する。 (屋内)バスケットボール, バレーボール, バドミントン, フットサル, 卓球 (屋外)サッカー, テニス, ソフトボール, ゴルフ, 水泳 第15週:課題レポートの作成、提出または筆記試験を実施する				
教科書	カラー・ワイド・スポーツ(大修館書店)				
参考書	健康・スポーツ科学の基礎(杏林書院)				
関連教科					
基礎知識	保健体育1, 保健体育2, 保健体育3, 保健体育4				
成績の評価方法	総合評価割合		授業での到達目標が達成され、審判・ルールに基づくゲームから各運動技能の実践力が養われたかを評価する。 成績は課題レポートの提出、実技・スキルテストの得点、業時中の態度や意欲(積極性、協調性)を得点化し、その合計によって評価する。さらに、体育実技は実際に体を動かすことによって授業内容を理解・学習するため、出席は極めて重視される。評価基準は60点以上。		
	定期試験				
	レポート	30%			
	演習・小テスト	20%			
	その他	50%			
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 柏木美千代	
授業科目名	音楽I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	1
区分	必修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この授業は、「豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材を育成する」という本校の教育理念・目標に基づき、さまざまな音楽を体感することにより、自己表現や創造力を高め、生涯にわたり音楽に親しんでいく心を育てる。また、音楽を通して、国際化、多様化する社会に対応できる「コミュニケーション力」を育む。				
関連する本校の学習教育目標	A		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱において、のびのびとした発声で、曲想にあった表現ができる。 ・基礎的な楽典を理解し、あわせて楽曲の歴史的・社会的背景を知ることにより、一層深みのある演奏に生かすことができる。 ・多彩な楽曲を鑑賞することにより、さまざまなジャンルの音楽についての興味・関心を広げることができる。 				
授業の進め方とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の自主性や到達度に配慮しながら、教材や進度を検討する。 ・授業内容、その他に関する質問は、授業の前後に適宜、受け付ける。 				
授業内容とスケジュール	第1週 修学ガイダンス 第2週 修学ガイダンス 第3週 歌唱(フォークソング) 第4週 鑑賞(モーツァルトの音楽) 第5週 鑑賞(映画音楽) 第6週 鑑賞(映画音楽) 第7週 歌唱(カンツォーネ) 第8週 鑑賞(イタリアの歌) 第9週 歌唱(カンツォーネ) 第10週 鑑賞(洋楽) 第11週 鑑賞(オーケストラ入門) 第12週 まとめ 第13週 中間実技試験 第14週 中間実技試験 第15週 歌唱・鑑賞(沖縄の音楽) 第16週 歌唱・鑑賞(日本の民謡) 第17週 歌唱・鑑賞(日本の民謡) 第18週 西洋音楽史 第19週 歌唱(ドイツ歌曲)・西洋音楽史 第20週 歌唱(ドイツ歌曲)・西洋音楽史 第21週 歌唱(ドイツ歌曲)・西洋音楽史 第22週 歌唱(ドイツ歌曲)・西洋音楽史 第23週 歌唱(ドイツ歌曲)・西洋音楽史 第24週 歌唱(ドイツ歌曲)・西洋音楽史 第25週 鑑賞(ミュージカル) 第26週 鑑賞(ミュージカル) 第27週 期末実技試験 第28週 期末実技試験 第29週 総まとめ・鑑賞 第30週 総まとめ・鑑賞				
教科書	MOUSA I(教育芸術社)				
参考書					
関連教科	地理、歴史、国語、英語、ドイツ語				
基礎知識	歌唱、器楽、楽典				
成績の評価方法	総合評価割合			定期試験50% レポート20% 演習20% その他10%	
	定期試験		50%	「その他」は、出席・遅刻等の評価で、授業態度など平素の取り組みを重視する。	
	レポート		20%		
	演習・小テスト		20%		
	その他		10%		
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 柏木美千代	
授業科目名	音楽II		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	1
区分	必修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この授業は、「豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材を育成する」という本校の教育理念・目標に基づき、さまざまな音楽を体感することにより、自己表現や創造力を高め、生涯にわたり音楽に親しんでいく心を育てる。また、1年の音楽で学んだ内容を礎として、さらに理解を深め、より主体的に自らを表現し感性を磨いていく力を育む。				
関連する本校の学習教育目標	A		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱やギターのアンサンブルを通して、奏法や表現を工夫し、グループ活動を行うことで協調性を養い、一つの音楽を創りあげる楽しさや達成感を味わうことができる。 ・多彩な楽曲を演奏・鑑賞することにより、歴史的・文化的背景との関わりに理解を深めることができる。 				
授業の進め方とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・個々や各グループの自主性や到達度に配慮しながら、教材や進度を検討する。 ・授業内容、その他に関する質問は、授業の前後に適宜、受け付ける。 				
授業内容とスケジュール	第1週 授業ガイダンス・歌唱(合唱 音取り) 第2週 歌唱(合唱 音取り)・楽典(音名・階名) 第3週 歌唱(合唱 音取り) 第4週 楽典(音階)・鑑賞(フランスの歌曲) 第5週 鑑賞(映画ミュージカル) 第6週 鑑賞(映画ミュージカル) 第7週 指揮者・スコアについて 第8週 合唱 班活動 第9週 合唱 班活動 第10週 合唱 班活動 第11週 合唱 班活動 第12週 合唱 班活動 第13週 中間実技試験(合唱) 第14週 中間実技試験(合唱) 第15週 合唱まとめ・オペラについて 第16週 鑑賞(オペラ) 第17週 鑑賞(オペラ) 第18週 鑑賞(オペラ) 第19週 鑑賞(オペラ) 第20週 ギター入門・コードネーム 第21週 ギター基礎練習 第22週 ギター基礎練習 第23週 ギター基礎練習 第24週 ギター基礎練習 課題練習 第25週 ギター基礎練習 課題練習 第26週 ギター基礎練習 課題練習 第27週 期末実技試験 第28週 期末実技試験 第29週 総まとめ・鑑賞 第30週 総まとめ・鑑賞				
教科書	MOUSA I(教育芸術社)				
参考書	アコースティックギターに関する曲集				
関連教科	地理、歴史、国語、英語、ドイツ語				
基礎知識	歌唱、器楽、楽典				
成績の評価方法	総合評価割合			定期試験50% レポート20% 演習20% その他10% 「その他」は、出席・遅刻等の評価で、授業態度など平素の取り組みを重視する。	
	定期試験		50%		
	レポート		20%		
	演習・小テスト		20%		
	その他		10%		
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 中井大造・早水英美	
授業科目名	英語総合I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この講義は本校の教育目標のうち「基礎力」「コミュニケーション力」を養う科目である。テキストの教材に従って、英語を「読む」「話す」「聞く」「書く」ための基本的能力を養うとともに、様々な内容の英文にふれることによって、異文化に対する理解を深める。				
関連する本校の学習教育目標	(E)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	<p>中学校で習得した英語の知識を基礎にして、語彙、文法、表現力を身につける。さらに、習得した語彙、文法、表現力を使い、基礎的な英語を読んだり書いたりできると共に、正しい発音、リズム、アクセントで簡単な日常会話ができるようにする。</p> <p>教材の内容に従い、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新出構文、文法事項を理解する 2. 新出単語・熟語の使い方を理解し語彙力を高める 3. 英文の内容をリスニング・リーディングを通して正しく理解する 4. 英文を正しい発音・アクセントで音読する 5. 英文の内容について自分の考えを英語で表現することを目標とする。 				
授業の進め方とアドバイス	<p>新出単語・熟語を辞書で調べ、本文の内容についておおまかな内容を考えて授業に臨んでもらいたい。授業には必ず辞書を携帯すること。</p> <p>授業に集中し、その日の内容はできるだけ授業中に理解するように心がけてほしい。授業に関する質問は適宜受け付ける。</p> <p>原則として毎週語彙の小テストを行う</p>				
授業内容とスケジュール	<p>第1週： 修学ガイダンス 第2週： Lesson 1 (本文) 第3週： Lesson 1 (本文) 第4週： Lesson 1 (本文) 第5週： Lesson 2 (本文) 第6週： Lesson 2 (本文) 第7週： Lesson 2 (本文、workbook および小テスト) 第8週： 前期中間試験 第9週： Lesson 3 (本文) 第10週： Lesson 3 (本文) 第11週： Lesson 3 (本文) 第12週： Lesson 4 (本文) 第13週： Lesson 4 (本文) 第14週： Lesson 4 (本文、workbook および小テスト) 第15週： 前期の復習 前期期末試験 第16週： Lesson 5 (本文) 第17週： Lesson 5 (本文) 第18週： Lesson 5 (本文) 第19週： Lesson 6 (本文) 第20週： Lesson 6 (本文) 第21週： Lesson 6 (本文、workbook および小テスト) 第22週： 復習 第23週： 後期中間試験 第24週： Lesson 7 (本文) 第25週： Lesson 7 (本文) 第26週： Lesson 7 (本文) 第27週： Lesson 8 (本文) 第28週： Lesson 8 (本文) 第29週： Lesson 8 (本文、workbook および小テスト) 第30週： 後期の復習 学年末試験</p>				
教科書	Power On Communication English I(東京書籍) COCET2600(成美堂)				
参考書					
関連教科	英語演習・英会話				
基礎知識	中学校で学習した内容				
成績の評価方法	総合評価割合		小テストには単語テストを含む。 その他は、出席状況、授業態度等による。居眠り、携帯電話の使用、漫画などの読書、他教科の勉強、私語などによる授業妨害は減点する		
	定期試験	60%			
	レポート	10%			
	演習・小テスト	20%			
	その他	10%			
		100%			
備考					

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 中島美智子 能登路純子	
授業科目名	英語総合II		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この授業は本校の教育目標のうち「技術者としての基礎力・コミュニケーション力」を養う科目である。授業ではテキストに従って、英語を「読む」・「話す」・「聞く」・「書く」ための基本的能力を養うとともに、様々な内容の英文にふれることによって、異文化に対する理解を深めることができる。				
関連する本校の学習教育目標	(E)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	<p>一年生で修得した英語の知識を土台にして、それよりさらに発展した文章の概要や要点を読み取ることができる。さらに主体的に英語を読み、書き、話し、聞く学習態度を身につけ、自らすすんで積極的にコミュニケーション活動に取り組む素地を養う。</p> <p>教材の内容に従い、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新出構文、文法事項を理解する 2. 新出単語・熟語の使い方を理解し語彙力を高める 3. 英文の内容をリスニング・リーディングを通して正しく理解する 4. 英文を正しい発音・アクセントで音読する 5. 英文の内容について自分の考えを英語で表現することを目標とする。 				
授業の進め方とアドバイス	<p>本文を書写し、新出単語・熟語を辞書で調べ、本文の内容をおおまかに理解して授業に臨むこと。授業に集中し、その日の内容はできるだけ授業中に理解するように心がける。</p> <p>COCE T2600の小テストは原則毎週行う。</p>				
授業内容とスケジュール	<p>第1週: ガイダンス 第2週: Lesson 8 (World Trek I) 第3週: Lesson 8 第4週: Lesson 8 第5週: Lesson 8 第6週: Lesson 8 第7週: 試験対策問題演習 第8週: 前期中間試験 第9週: Lesson 9 第10週: Lesson 9 第11週: Lesson 9 第12週: Lesson 9 第13週: Lesson 9 第14週: Lesson 9 第15週: 試験対策問題演習 前期期末試験 第16週: Lesson 1 (World Trek II) 第17週: Lesson 1 第18週: Lesson 1 第19週: Lesson 2 第20週: Lesson 2 第21週: Lesson 2 第22週: 試験対策問題演習 第23週: 後期中間試験 第24週: Lesson 3 第25週: Lesson 3 第26週: Lesson 3 第27週: Lesson 4 第28週: Lesson 4 第29週: Lesson 4 第30週: 1年間の総まとめ 学年末試験</p>				
教科書	World Trek I・II (桐原書店)、理工系学生のための必修英単語2600				
参考書					
関連教科	基礎英語会話 英語基礎演習				
基礎知識	1年次で学習した英語総合・英語演習・英会話				
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験			70%	
	レポート			10%	
	演習・小テスト			10%	
	その他			10%	
				100%	
備考					

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 酒井康宏・中島美智子	
授業科目名	英語総合III		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	テキストの教材に従って、英語を「読む」「聞く」「書く」「話す」ための基本的能力を養うとともに、様々な内容の英文に触れることにより、異文化に対する理解を深める。 語彙の増強を図る				
関連する本校の学習教育目標	(E)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	<p>全体目標としてのコミュニケーション能力育成の中で、一年次・二年次で習得した知識をもとに、新たな文法事項を習得し、語彙力を高め、より複雑な文章の概要や要点を正確に読み取ることができるようにするとともに、場面や目的に応じて、主体的に英語を読み・書き・話し・聞くことにより英語運用能力を高める。また様々な英文にふれることで、異文化に対する理解を深める。</p> <p>授業においては、教材の内容に従い、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新出構文、文法事項を理解できる。 2. 新出単語・熟語の使い方を理解し、語彙力を高めることができる。 3. 英文の内容を、リスニング・リーディングを通して理解できる。 4. 英文を正しい発音・アクセントで音読できる。 5. 英文の内容について自分の考えを英語で表現できる。 <p>ことを目標とする。</p>				
授業の進め方とアドバイス	<p>* 予習が必要である。新出単語・熟語を辞書で調べ、本文についておおまかな内容を考えて授業に臨んでほしい。授業には必ず辞書を携帯すること。</p> <p>* 授業に集中し、その日の内容はできるだけ授業中に理解するように心がけてほしい。</p> <p>* 毎週、語彙の小テストを実施する。</p> <p>* 質問対応については、週1回放課後1時間程度設ける。</p>				
授業内容とスケジュール	<p>第1週: オリエンテーション</p> <p>第2週: Lesson 5(1)(2) Reading 関係副詞whereとwhenの非制限用法</p> <p>第3週: Lesson 5(3)(4) Reading 同格の接続詞that 未来進行形</p> <p>第4週: Lesson 6(1)(2) Reading 形式目的語it[=to不定詞] 使役動詞</p> <p>第5週: Lesson 6(3)(4) Reading 否定を表す形容詞・副詞 仮定法</p> <p>第6週: 復習</p> <p>第7週: 復習</p> <p>第8週: 前期中間試験</p> <p>第9週: Lesson 7(1)(2) Reading 進行形の受け身 倒置</p> <p>第10週: Lesson 7(3)(4) Reading 付帯状況を表すwith 疑問詞+to不定詞</p> <p>第11週: Lesson 8(1)(2) Reading 比較の程度 if/whether節</p> <p>第12週: Lesson 8(3)(4) Reading 完了不定詞 形式目的語it[=that節]</p> <p>第13週: 前期の総合的復習(1)</p> <p>第14週: 前期の総合的復習(2)</p> <p>第15週: 前期の総合的復習(3)</p> <p>前期末試験</p> <p>第16週: Lesson 9(1) Reading 内容をすばやく読み取る</p> <p>第17週: Lesson 9(2) Reading 仮定法過去完了</p> <p>第18週: Lesson 9(3) Reading 完了形の分詞構文</p> <p>第19週: Lesson 9(4) Reading 前置詞+関係代名詞</p> <p>第20週: 復習</p> <p>第21週: 復習</p> <p>第22週: 復習</p> <p>第23週: 後期中間試験</p> <p>第24週: Lesson 10(1) Reading 内容をすばやく読み取る</p> <p>第25週: Lesson 10(2) Reading I wish+仮定法過去</p> <p>第26週: Lesson 10(3) Reading 関係代名詞whoseの制限用法</p> <p>第27週: Lesson 10(4) Reading 譲歩を表す表現</p> <p>第28週: 後期の総合的復習(1)</p> <p>第29週: 後期の総合的復習(2)</p> <p>第30週: 後期の総合的復習(3)</p> <p>学年末試験</p>				
教科書	Power On II(東京書籍) COCET2600(成美堂)				
参考書					
関連教科	英語基礎演習・基礎英語会話				
基礎知識	第2学年までの英語総合、基礎英語会話、基礎英語演習				
成績の評価方法	総合評価割合		その他: 積極的な授業参加の態度を評価する。居眠り、私語、携帯の使用、漫画や小説などの隠れ読み、他の教科の勉強(いわゆる内職)などは減点の対象とする。		
	定期試験	70%			
	レポート	10%			
	演習・小テスト	10%			
	その他	10%			
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 外国語科教員	
授業科目名	英語総合演習		科目コード		
学年	4	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態	演習	単位種別	履修
授業概要	CALL教室において各自が端末で英語学習ソフトを利用し、TOEIC演習(前半)・アルクネットアカデミー学習ユニット(後半)を行う。語彙を増やすためのアルク単語道場レベル2の学習も行う。				
関連する本校の学習教育目標	複合システムデザイン工学プログラム(E-1) 建築学プログラム(E-2)	関連するJABEE学習教育目標	複合システムデザイン工学プログラム(f) 建築学プログラム(f)		
到達目標	1. 様々な場面での会話を的確に聞き取り、速やかに応答する能力を養う 2. 英文を素早くと確に読み取るための語彙力、文法力を高める 3. 積極的に英語で意思の疎通を図ろうとする態度を養う				
授業の進め方とアドバイス	前半はTOEIC演習と解答・解説を行う。 後半は学習ユニットと単語道場を個人個人で行う。				
授業内容とスケジュール	第1週 : ガイダンス・語彙力診断テスト 第2週 : TOEIC演習・レベル2リスニングユニット・単語道場 第4週 : TOEIC演習・レベル2リーディングユニット・単語道場 第5週 : TOEIC演習・レベル2リスニングユニット・単語道場 第6週 : TOEIC演習・レベル2リーディングユニット・単語道場 第7週 : TOEIC演習・レベル2リスニングユニット・単語道場 第8週 : TOEIC演習・レベル2リーディングユニット・単語道場 第9週 : 前期中間試験 第10週 : TOEIC演習・レベル2リスニングユニット・単語道場 第11週 : TOEIC演習・レベル2リーディングユニット・単語道場 第12週 : TOEIC演習・レベル2リスニングユニット・単語道場 第13週 : TOEIC演習・レベル2リーディングユニット・単語道場 第14週 : TOEIC演習・レベル3リスニングユニット・単語道場 第15週 : TOEIC演習・レベル3リーディングユニット・単語道場 前期期末試験 第16週 : TOEIC演習・レベル3リスニングユニット・単語道場 第17週 : TOEIC演習・レベル3リーディングユニット・単語道場 第18週 : TOEIC演習・レベル3リスニングユニット・単語道場 第19週 : TOEIC演習・レベル3リーディングユニット・単語道場 第20週 : TOEIC演習・レベル3リスニング1ユニット・単語道場 第21週 : TOEIC演習・レベル3リーディング2ユニット・単語道場 第22週 : TOEIC演習・レベル3リスニング1ユニット・単語道場 第23週 : 後期中間試験 第24週 : TOEIC演習・レベル3リーディングユニット・単語道場 第25週 : TOEIC演習・レベル3リスニングユニット・単語道場 第26週 : TOEIC演習・レベル3リーディングユニット・単語道場 第27週 : TOEIC演習・レベル3リスニングユニット・単語道場 第28週 : TOEIC演習・レベル3リーディングユニット・単語道場 第29週 : TOEIC演習・レベル3リスニングユニット・単語道場 第30週 : TOEIC演習 学年末試験				
教科書					
参考書					
関連教科基礎知識	1・2・3年次の英語総合・英語基礎演習・基礎英会話				
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験	70%			
	レポート				
	演習・小テスト	20%			
	その他	10%			
			100%		
備考	演習・小テストは指定されたユニットの学習終了を意味し、その他はユニット中のアドバンスポイントを意味する。				

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 中井大造・酒井康宏・早水英美	
授業科目名	基礎英語演習I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	1
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	社会とかかわるためのコミュニケーション能力を養う科目。中学校で習得した語彙、文法を基礎として、さらに発展した英語の修得と応用のための基本的な文法体系を学び、読む、聞く、書く、話すといった英語の4技能の基礎となるコミュニケーションのための学習をする。				
関連する本校の学習教育目標	(E)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	1) 中学校で習得した文法事項のうえにさらに発展した事項を学習すること。 2) 学んだ文法を使って基礎的な文章を読んだり書いたりできるようになること。 3) 学んだ知識を使って基礎的な文を聞いたり話したりできるようになること。				
授業の進め方とアドバイス	教科書を中心にして授業を進めるが、必要に応じて基本文法事項の参照や、関連する内容をさらに発展させる。また、練習問題を多くこなす中で、文法に関する知識を身につけられるように、ドリルブックを学習し、提出させる。質問は授業の前後か、オフィスアワーの時に研究室に来ること。				
授業内容とスケジュール	第1週 修学ガイダンス 第2週 品詞と文の要素 第3週 序章 第4週 第1章 動詞と時制(1) 第5週 第2章 動詞と時制(2) 第6週 第3章 動詞と時制(3) 第7週 まとめ 第8週 前期中間試験 第9週 第4章 完了形(1) 第10週 Plus 完了形 第11週 第5章 完了形(2) 第12週 第6章 助動詞(1) 第13週 第7章 助動詞(2) 第14週 plus 助動詞 第15週 まとめ 前期期末試験 第16週 第8章 態(1) 第17週 第9章 態(2) 第18週 Plus 態 第19週 第10章 不定詞(1) 第20週 第11章 不定詞(2) 第21週 第12章 不定詞(3) 第22週 まとめ 第23週 後期中間試験 第24週 plus 不定詞1 第25週 plus 不定詞2 第26週 第13章 動名詞 第27週 plus 動名詞1 第28週 plus 動名詞2 第29週 まとめ 第30週 まとめ 学年末試験				
教科書	Framework English Grammar in 23 Lessons 7th edition (桐原書店)				
参考書					
関連教科	英語総合・英会話				
基礎知識	中学校で学習した内容				
成績の評価方法	総合評価割合		レポートとは提出物のことをいう。その他は、出席状況不良、居眠り、携帯電話の使用、漫画などの読書、他教科の勉強、私語などによる授業妨害は減点する。		
	定期試験	70%			
	レポート	10%			
	演習・小テスト	10%			
	その他	10%			
		100%			
備考					

対象学科	全学科		担当教員	酒井康宏・早水英美・中井大造	
授業科目名	基礎英語演習II		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	1
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	社会とかかわるコミュニケーション力を養う科目。1年生で習得した語彙、文法を基礎として、さらに発展した英語の習得と応用のための文法大系を学び、読む、聞く、書く、話すといった英語の4技能の基礎となる学習をする。				
関連する本校の学習教育目標	(E)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	1) 1年生で習得した文法事項のうえにさらに基礎的な事項を積み重ね学習できる。 2) 学んだ文法を応用して、基礎的な文章を読んだり書いたりできる。 3) 学んだ知識を応用して、基礎的な文を聞いて理解したり、話したりできる。				
授業の進め方とアドバイス	教科書を中心にして授業を進めるが、文法に関連する例文をできるだけ多く例示し、練習問題を多くこなす中で文法に関する知識を身につけられるようにする。質問があれば授業の前後かオフィスアワーに研究室に来室すること。				
授業内容とスケジュール	第1週 修学ガイダンス 動名詞 第2週 plus 動名詞(1) 第3週 plus 動名詞(2) 第4週 分詞(1) 第5週 分詞(2) 第6週 分詞(3) 第7週 plus 分詞 第8週 前期中間試験 第9週 比較(1) 第10週 比較(2) 第11週 plus 比較 第12週 関係詞(1) 第13週 関係詞(2) 第14週 関係詞(3) 第15週 複合関係詞 前期期末試験 第16週 仮定法(1) 第17週 仮定法(2) 第18週 plus 仮定法 第19週 まとめ 第20週 まとめ 第21週 後期中間試験 第22週 option1 第23週 option2 第24週 option3 第25週 option4 第26週 option5 第27週 option6 第28週 option7 第29週 option8 第30週 option9 学年末試験				
教科書	Framework English Grammar in 23 Lessons 6th edition(桐原書店)				
参考書					
関連教科	英語総合 基礎英語会話 基礎英語演習I				
基礎知識	中学校、高専1年生で学んだ英語				
成績の評価方法	総合評価割合			その他は、出席状況不良、授業態度、居眠り、携帯電話使用、漫画などの読書、他教科の勉強、私語などによる授業妨害は減点する。	
	定期試験		70%		
	レポート		10%		
	演習・小テスト		10%		
	その他		10%		
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 中井大造・森田典幸	
授業科目名	基礎英語演習Ⅲ		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	1
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	社会とかかわるコミュニケーション能力を養う科目。1、2年生で習得した語彙、文法を基礎にして、さらに発展した英語の習得と応用のための英文法体系を学び、読む、聞く、書く、話すといった英語の4技能を習得するための基礎となる学習をする。				
関連する本校の学習教育目標	(E)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	1) 1、2年生で習得した文法事項のうえにさらに発展した事項を学習すること。 2) 学んだ文法を応用して、基本的な文章を読んだり書いたりできるようになること。 3) 学んだ知識を応用して、基本的な文を聞いて理解したり話したりできるようになること。				
授業の進め方とアドバイス	教科書を中心にして授業を進めるが、文法に関する例文をできるだけ多く提示し、練習問題を多くこなす中で、文法に関する知識を身につけられるようにする。質問は曜日によりオフィスアワーにあたって先生のところに行くこと。				
授業内容とスケジュール	第1週: 修学ガイダンス 序章 動詞の活用 第2週: 動詞と時制(1)(2) 第3週: 動詞と時制(3) 第4週: 完了形(1) 第5週: 完了形(2) 第6週: plus完了形 まとめ時制~完了形 第7週: 前期中間試験 第8週: 助動詞(1) 第9週: 助動詞(1)助動詞(2) 第10週: 助動詞(2) 第11週: plus助動詞 まとめ助動詞 第12週: 態(1) 第13週: 態(1) 態(2) 第14週: 態(2) 第15週: plus態 まとめ態 前期期末試験 第16週: 不定詞(1) 第17週: 不定詞(1)不定詞(2) 第18週: 不定詞(2) 第19週: plus不定詞(1) 第20週: plus不定詞(2) 第21週: まとめ 第22週: 後期中間試験 第23週: 動名詞 第23週: plus動名詞(1) 第24週: plus動名詞(2) 第25週: 分詞(1) 第26週: 分詞(2) 第27週: 分詞(3) 第28週: Plus分詞 第29週: まとめ不定詞・動名詞・分詞 第30週: まとめ 後期期末試験				
教科書	Benchmark English Grammar More Drills 7th Edition. (桐原書店)				
参考書					
関連教科	英語総合I,II 基礎英語演習I,II 基礎英語会話I,II				
基礎知識	中学校、高専1、2年生で学んだ英語				
成績の評価方法	総合評価割合		その他 授業への積極的な取組を評価する。居眠り、携帯電話、内職(他の教科の勉強)漫画、小説等の隠れ読み、私語等で授業を妨害するなど授業を受ける以外の行為を行っている場合、減点をする。		
	定期試験	70%			
	レポート	10%			
	演習・小テスト	10%			
	その他	10%			
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 フランク・バートン (Frank Barton)	
授業科目名	基礎英語会話I		科目コード		
学年	1	開講時期	通年	単位数	1
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	社会とかかわるコミュニケーション能力を養成する。基礎的な会話の技術と能力を習得し、会話に必要な文章表現と語彙を身につける。				
関連する本校の学習教育目標	(E)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	1) 語彙力をつけること。 2) 会話表現を暗記すること。 3) 自己表現ができるようになること。 4) 会話表現が時、場所、機会に応じて使用出来るようになること。 5) 言語や文化の違いを理解すること				
授業の進め方とアドバイス	できるだけ自由に発言、会話ができるようにしたいので、恥ずかしがらず、積極的に発言、発言すること。質問があれば自由に行うこと。その度ごとに答えます。非常勤のためオフィスアワーが設けられないので、授業の前後に対応する。常勤の先生のところへ行くのもよい。				
授業内容とスケジュール	第1週: 修学ガイダンス 第2週: 発音について 第3週: あいさつ 第4週: 会話練習 第5週: 丁寧表現 第6週: 音読 第7週: 語彙 第8週: 前期中間試験 第9週: 条件会話 第10週: 会話練習 第11週: 語彙チェック 読み 第12週: 新出語彙 会話練習 第13週: 説明の英語 第14週: 質問の英語 第15週: 新出語彙 前期期末試験 第16週: 要求の英語 第17週: 口ならしの会話 第18週: 語彙の宿題のチェック 第19週: ほめる英語 第20週: 丁寧表現その2 第21週: 新出語彙 第22週: 自由に質問する練習 第23週: 後期中間試験 第24週: 電話の会話 第25週: 語彙チェック 読み 第26週: 発音練習 第27週: 案内の会話 第28週: 気持ちや考えを表現する会話 第29週: 語彙チェック 会話練習 第30週: 場面会話 学年末試験				
教科書	New Sight (櫻苑) ONE WORLD ENGLISH AMENG English Course				
参考書					
関連教科	英語総合I 基礎英語演習I				
基礎知識	中学校の学習内容				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験90% その他10%		
	定期試験		90%	その他は、コミュニケーション力に必要なと思われる出席を含む授業への参加姿勢、話掛けに対する応答、話し方の技術、課題、スピーチなどを総合して評価する。	
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他		10%		
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 山根アドリアナ	
授業科目名	基礎英語会話II		科目コード		
学年	2	開講時期	通年	単位数	1
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	この授業は初級の学習者が英語でコミュニケーションをする自信をつけるのに役立つものである。英語の語彙、文法、言い回しを使って自分のことや意見、考えを相手に伝える練習をする。				
関連する本校の学習教育目標	(E)	関連するJABEE学習教育目標			
到達目標	1) 英語を話す自信をつけること 2) 以前に学習したことを使う能力を高めること 3) 自分の経験や興味を話す能力を高めることができる。 4) 語彙力をつけること。				
授業の進め方とアドバイス	授業では、短い会話練習、語彙と構文の聞き取り、文法チェック、ペアワークによる情報、意見交換の練習、宿題などがある。授業は英語で行い、毎週小テストと宿題を出す。目指すは英語の進歩と楽しむことである。非常勤なのでオフィスアワーは設けられないが、授業の前後に質問等があればしてもらいたい。また、常勤の先生のところへ行くのもよい。				
授業内容とスケジュール	第1週: ガイダンス 第2週: 週末 第3週: 公共交通: タクシー 第4週: 交通手段: 車 第5週: パーティー 第6週: 食事: レストラン 第7週: デパートでの買い物 第8週: 前期中間試験 第9週: 空の旅 第10週: 病気と治療 第11週: 仕事 第12週: フィットネスクラブ: 運動 第13週: 招待 第14週: 小話 第15週: 趣味 前期期末試験 第16週: 買い物 第17週: ホテル 第18週: 映画 第19週: 恐怖 第20週: 電話のメッセージ 第21週: 観光 第22週: 空港 第23週: 後期中間試験 第24週: ホテルのチェックイン 第25週: 交通 第26週: ルーム友達 第27週: 旅行 第28週: 復習(1) 第29週: 復習(2) 第30週: 総復習 学年末試験				
教科書	Learn to Listen (Macmillan Language House)				
参考書	英和辞書 和英辞書				
関連教科	英語総合II 基礎英語演習II				
基礎知識	英語総合I 基礎英語演習I 基礎英語会話I				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験70% 宿題10% 演習・小テスト10% その他10%		
	定期試験	70%	その他は、コミュニケーションにおいて重要な積極的かつ自発的な授業参加意欲、授業中の発言、発話と出席とする。		
	レポート	10%			
	演習・小テスト	10%			
	その他	10%			
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 マーティン・バーナード	
授業科目名	基礎英語会話Ⅲ		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	1
区分	必履修	授業の形態	演習	単位種別	
授業概要	英語の4技能(聞く、話す、読む、書く)の習得と向上を目指す。特に会話に重点をおいてコミュニケーション能力の育成をはかる。				
関連する本校の学習教育目標	(E)		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	1.英語の苦手意識を払拭して、英語が意思伝達の道具として楽しいものであると思うことができる 2.自己の意思を英語で伝える能力を養い、自分が英語を話せることを個人個人が確信できる				
授業の進め方とアドバイス	テキストを使いながら、いろいろなテーマについて、英語で発表したり、他の学生の発表を聞いて意見を述べたりして、英語での口頭表現の練習を行う。小テストも実施する。会話の授業なので、積極的な授業参加が望まれる。				
授業内容とスケジュール	第1週 : ガイダンス(授業の進め方と授業概要について) 第2週 : 英語の語彙について尋ねる。 第3週 : 興味のあるものについて話したり尋ねたりする 第4週 : 解らない時に、聞き返したり、ゆっくり言ってもらおう 第5週 : スポーツや運動について話したり尋ねたりする 第6週 : 暇なときに何をするかを話す 第7週 : 性格について話したり尋ねたりする 第8週 : 人が言っていることが本当か、そうでないかを言う 第9週 : 人の格好について話したり尋ねたりする 第10週 : 天気や季節について話す 第11週 : 意見を言ったり求めたりする 第12週 : 何をしたいかについて話す 第13週 : 訪ねてみたい場所について話す 第14週 : 家庭について尋ねたり答えたりする 第15週 : 復習 前期期末試験 第16週 : 要求に対して賛成する 第17週 : 家事について話す 第18週 : 家について説明する 第19週 : 指示を与えたり、指示に従ったりする 第20週 : 自分の気分を述べたり、人によるしく伝える 第21週 : 健康に気をつけていることを話したり尋ねたりする 第22週 : ストレスをうまく扱う方法を議論する 第23週 : 自分の好きなテレビ番組について話をする 第24週 : 人の意見に賛成したり反対したりする 第25週 : 将来計画について説明する 第26週 : 人気のあるテレビ番組について意見を述べる 第27週 : 製品の説明をしたり比べたりする 第28週 : ハーゲンについて話す 第29週 : 服が似合うかどうかについて話す 第30週 : まとめ 学年末試験				
教科書	Four Corners (Cambridge University Press)				
参考書					
関連教科基礎知識	1・2年次の英語総合・英語基礎演習・基礎英会話				
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験		100%		
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他				
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 浜山昌雄	
授業科目名	独語		科目コード	G0120	
学年	4	開講時期	通年	単位数	3
区分	必履修	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	この講義は本校の教育目標に掲げられた「発展力」と「コミュニケーション力」を育成することを目的としている。具体的には、日常生活で想定される様々な場面に応じた表現を通じて、ドイツ語によるコミュニケーションに必要な不可欠な基礎的語彙と文法事項を学んでゆく。また、ドイツ語を通じて言語を対象として眺める観点を養い言語一般に対する理解を深めてゆく。				
関連する本校の学習教育目標	複合システムデザイン工学プログラム(E-1) 建築学プログラム(E-2)		関連するJABEE学習教育目標	複合システムデザイン工学プログラム(f) 建築学プログラム(f)	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 綴りと発音の関係を理解し文を正しく音読できるようにする。 2. 基本的な語句を習得し、挨拶、自己紹介、質問、要求の表現ができるようになる。 3. 音声、または文字による質問に対して的確に回答できるようにする。 4. 画像や現実の対象について簡単な叙述ができるようになる。 5. 基本的な文構造を理解し平易な文章の読解、簡単な作文ができるようになる。 				
授業の進め方とアドバイス	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音声教材を用いて聴解の訓練をする。 2. キーセンテンスを復唱して語句を修得する。 3. 教師⇄学生、学生⇄教師の間で双方向的な質問を繰り返し基本的な表現の練習をする。 4. 文法事項について解説し内容の定着を図るための練習問題を行う。 5. まとまった文章を読みその内容についての質問に答える。 6. 修得した表現を用いて学生同士で自由な対話を行う。 <p>なお、質問等については授業中に随時対応するが、オフィスアワーを設け、日時については初回授業時に告知する。</p>				
授業内容とスケジュール	<p>第1週: 授業ガイダンス、Alphabetと母音 第2週: 発音の基本、つづりの読み方 第3週: あいさつ、人称代名詞 第4週: 動詞、人称変化 第5週: 名詞の性 第6週: 冠詞、格変化 第7週: 名詞の複数形、不規則動詞 第8週: 前期中間のまとめ 第9週: 前置詞 第10週: 名詞の3格 第11週: 3格、4格の目的語 第12週: 所有冠詞 第13週: 格変化と冠詞類のまとめ 第14週: 動詞の変化と位置のまとめ 第15週: 前期末のまとめ 前期末試験 第16週: 分離動詞 第17週: 動詞の位置 第18週: 再帰動詞 第19週: 話法の助動詞 第20週: 形容詞の格変化 第21週: 形容詞の比較 第22週: 後期中間のまとめ 第23週: 時制 第24週: 現在完了形(1) 第25週: 現在完了形(2) 第26週: 過去分詞の用法 第27週: 語順と文のタイプ 第28週: 動詞と文のタイプ 第29週: 後期のまとめ 第30週: 一年間のまとめ 学年末試験</p>				
教科書	MODELLE 1-自己表現のドイツ語				
参考書	独和辞典				
関連教科					
基礎知識	言語表現に関するあらゆる既習の知識				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験により通年で評価する。		
	定期試験		100%		
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他				
備考			100%		

対象学科	留学生		担当教員	非常勤講師 永田俊樹	
授業科目名	日本語教育I(国語III)		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	日本初級コースを終了した留学生を対象とし、さらに日本語能力を発展させることを目指す。ある程度の読解はできるが、話す能力はまだ低い学生が多いので、できる限り発言の機会を与え日本語に慣れてもらう。従って、教授法は日本語を日本語で教えるダイレクトメソッドを採用する。				
関連する本校の学習教育目標	E		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	1)日本語能力検定試験2級の合格を目指すこと 2)日本語能力試験1級を受験する実力を培うこと 3)ニュースや新聞の日本語が理解出来ること 4)日本人と意見交換ができるだけの日本語能力をつけること				
授業の進め方とアドバイス	毎回問題集を中心にいろいろな日本語を扱い、問題演習と共に、高等で自分の意見を効果的かつ論理的に述べる練習をする。英語での解説はできるだけ少なくし、原則として日本語を使って教授する。				
授業内容とスケジュール	第1週:漢字読み方 1 第2週:漢字読み方 2 第3週:漢字読み方 3 第4週:漢字書き方 1 第5週:漢字書き方 2 第6週:漢字書き方 3 第7週:語彙適語の選択 1 第8週:語彙適語の選択 2 第9週:前期中間試験 第10週:語彙単語の意味 1 第11週:語彙単語の意味 2 第12週:語彙単語の意味 3 第13週:読解同義文 1 第14週:読解同義文 2 第15週:読解同義文 3 前期期末試験 第16週:読解要旨の把握 1 第17週:読解要旨の把握 2 第18週:読解要旨の把握 3 第19週:読解長文の総合問題 1 第20週:読解長文の総合問題 2 第21週:読解長文の総合問題 3 第22週:読解長文の総合問題 4 第23週:読解後期中間試験 第24週:文法穴埋め問題 1 第25週:文法穴埋め問題 2 第26週:文法文章完成問題 1 第27週:文法文章完成問題 2 第28週:総合演習 1 第29週:総合演習 2 第30週:総合演習 3 学年末試験				
教科書	毎回プリントを配付				
参考書	日本語能力試験2級、1級問題集 (アルク)				
関連教科	英語 日本語 社会				
基礎知識	日本語基礎文法				
成績の評価方法	総合評価割合			その他は授業参加の積極性、態度、発言、理解度などを総合的に評価する。	
	定期試験		50%		
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他		50%		
備考					100%

対象学科	留学生		担当教員	非常勤講師 笹間政典	
授業科目名	日本事情(地理)		科目コード		
学年	3	開講時期	通年	単位数	2
区分	必履修	授業の形態		単位種別	
授業概要	日本語の基礎を習得した留学生を対象に、読解および作文に重点を置いて、さらに日本語能力を発展させることを目指す。教授法は原則として日本語を日本語で教える直接法とし、類似表現や言い換えの表現などにも慣れるようにする。				
関連する本校の学習教育目標	A		関連するJABEE学習教育目標		
到達目標	1) 公式な文章と、くだけた会話調の文章の違いがわかるようになること。 2) 簡単なニュースや新聞の日本語が理解できるようになること。 3) 漢字混じりの簡単な日本文がフォーマルな文体で書けるようになること。				
授業の進め方とアドバイス	新聞記事や技術系の一般向け書籍、中級程度の日本語テキストを用いて文章の読解を行うとともに、適宜宿題として日本語作文の課題を与え、添削、フィードバックすることにより作文能力を高める。				
授業内容とスケジュール	第1週: 読解 1 文章の細部にわたる正確な理解 第2週: 読解 2 文章の細部にわたる正確な理解 第3週: 読解 3 文章の細部にわたる正確な理解 第4週: 読解 4 文章の細部にわたる正確な理解 第5週: 読解 5 文章の細部にわたる正確な理解 第6週: 読解 6 文章の細部にわたる正確な理解 第7週: 読解 7 文章の細部にわたる正確な理解 第8週: 読解 8 前期中間試験 第9週: 読解 9 文章の細部にわたる正確な理解 第10週: 読解10 文章の細部にわたる正確な理解 第11週: 読解11 要旨の把握と内容についての討論 第12週: 読解12 要旨の把握と内容についての討論 第13週: 読解13 要旨の把握と内容についての討論 第14週: 読解14 要旨の把握と内容についての討論 第15週: 読解15 要旨の把握と内容についての討論 前期末試験 第16週: 読解16 文章の細部にわたる正確な理解 第17週: 読解17 文章の細部にわたる正確な理解 第18週: 読解18 文章の細部にわたる正確な理解 第19週: 読解19 文章の細部にわたる正確な理解 第20週: 読解20 文章の細部にわたる正確な理解 第21週: 読解21 文章の細部にわたる正確な理解 第22週: 読解22 文章の細部にわたる正確な理解 第23週: 読解23 後期中間試験 第24週: 読解24 文章の細部にわたる正確な理解 第25週: 読解25 文章の細部にわたる正確な理解 第26週: 読解26 要旨の把握と内容についての討論 第27週: 読解27 要旨の把握と内容についての討論 第28週: 読解28 要旨の把握と内容についての討論 第29週: 読解29 要旨の把握と内容についての討論 第30週: 読解30 要旨の把握と内容についての討論 学年末試験				
教科書	毎回プリントを配布				
参考書	「日本語能力試験2級文法問題集」「科学技術の日本語」「中級から学ぶ日本語」				
関連教科	日本語教育I(国語III)				
基礎知識	日本語文法				
成績の評価方法	総合評価割合			理解度、宿題の提出率、正解率、発言などを総合的に評価する	
	定期試験		70%		
	レポート		30%		
	演習・小テスト				
	その他				
備考				100%	

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 中永廣樹	
授業科目名	文学I		科目コード		
学年	4	開講時期	前期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	わが国の古典の代表的な随筆作品である「徒然草」を読解することにより、筆者兼好の人生観、処世訓、自然観などを知ることができるようになる。「徒然草」の未読することにより、言語表現を豊かにすることができ、幅広い教養と豊かな感性を身につけることができるようになる。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:(A-2) 建築PRG:(D-1)		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG(a) 建築PRG(a)	
到達目標	優れた古典作品を鑑賞することで、古典の言語を通して言語感覚を磨き、表現力を身につけることができる。古人の生き方・感じ方を知り、現代のわれわれの生き方の参考にすることができ、幅広い考え方や教養を身につけることができる。				
授業の進め方とアドバイス	授業では教科書以外にも、適宜、プリント教材等を用いたり、現代の文学作品の朗読を行ったりする。質問のある場合は、授業のある日の休憩時間に随時、受け付ける。本科目は学修単位なので、次のような自学自習を60時間以上行うこと。(1)授業内容について予習する。(2)授業内容を理解するために復習する。(3)配布資料などについて復習する。(4)授業と関連する事項を調べる。(5)定期試験の準備を行う。				
授業内容とスケジュール	第1週:授業のガイダンス、徒然草の概説、徒然草序段(プリント教材) 第2週:徒然草 89段 第3週: 109段、52段 第4週: 53段 第5週:プリント教材(言葉の学習1) 第6週: 215段 第7週: 32段 第8週:前期中間試験 第9週:徒然草10段 第10週:7段 第11週:189段 第12週:150段 第13週:プリント教材(言葉の学習2) 第14週:140段、120段 第15週:121段 前期期末試験				
教科書	『要抄 徒然草』(日栄社)				
参考書	古語辞典(電子辞書でも可)				
関連教科	国語、歴史、音楽など				
基礎知識	国語、倫理、日本史など				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験とレポートにより100点満点の点数評価をする。		
	定期試験		90%		
	レポート		10%		
	演習・小テスト				
	その他				
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 永井 猛	
授業科目名	文学II		科目コード		
学年	4	開講時期	前期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	日本の古典芸能である神楽・雅楽・猿楽(能・狂言)、歌舞伎、人形浄瑠璃などの歴史的な背景を知り、代表作品の台本を読み、鑑賞することにより、日本で暮らす人の考え方、美意識、感性等を学んでいく。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:(A-2) 建築PRG:(D-1)		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:(a) 建築PRG:(a)	
到達目標	日本の古典芸能を通して、言語感覚を磨き、言語文化に対する理解を深め、心情を豊かにし、思考力の向上を図ることができる。				
授業の進め方とアドバイス	日本の古典芸能が持つ豊かな言語表現を学ぶことにより、各自の表現力、読解力など、基礎から応用までの国語力が身に付くよう配慮しつつ、授業を進めていく。質問がある場合は、休憩時間、放課後に随時、受け付ける。本科目は学修単位であるので、次のような自学自習を60時間以上行うこと。(1)新しい芸能等について予習をしておく。(2)授業内容を理解するために復習をする。(3)授業と関連する事項を調べる。(4)定期試験の準備をする。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス、古典芸能概説 第2週: 神楽について 第3週: 神楽について 第4週: 雅楽について 第5週: 猿楽(能・狂言)について 第6週: 能について 第7週: 能について 第8週: 前期中間試験 第9週: 狂言について 第10週: 狂言について 第11週: 歌舞伎について 第12週: 歌舞伎について 第13週: 歌舞伎について 第14週: 浄瑠璃について 第15週: 浄瑠璃について 前期期末試験				
教科書	プリント				
参考書	古語辞典、国語辞典(電子辞書でも可)				
関連教科	国語、歴史、音楽など				
基礎知識	文学史、日本史、古典文学など				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験、レポートにより100点満点の点数評価をする。		
	定期試験	80%			
	レポート	20%			
	演習・小テスト				
	その他				
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 中永廣樹	
授業科目名	文学Ⅲ		科目コード		
学年	4	開講時期	後期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	わが国の古典の代表的な随筆作品である「徒然草」を読解することにより、筆者兼好の人生観、処世訓、自然観などを知ることができるようになる。「徒然草」の未読することにより、言語表現を豊かにすることができ、幅広い教養と豊かな感性を身につけることができるようになる。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:(A-2) 建築PRG:(D-1)		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG(a) 建築PRG(a)	
到達目標	優れた古典作品を鑑賞することで、古典の言語を通して言語感覚を磨き、表現力を身につけることができる。古人の生き方・感じ方を知り、現代のわれわれの生き方の参考にすることができ、幅広い考え方や教養を身につけることができる。				
授業の進め方とアドバイス	授業では教科書以外にも、適宜、プリント教材等を用いたり、現代の文学作品の朗読を行ったりする。質問のある場合は、授業のある日の休憩時間に随時、受け付ける。本科目は学修単位なので、次のような自学自習を60時間以上行うこと。(1)授業内容について予習する。(2)授業内容を理解するために復習する。(3)配布資料などについて復習する。(4)授業と関連する事項を調べる。(5)定期試験の準備を行う。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス、徒然草の概説、徒然草序段(プリント教材) 第2週: 徒然草 50段 第3週: 236段 第4週: 141段 第5週: プリント教材(言葉の学習1) 第6週: 184段 第7週: 111段、55段 第8週: 後期中間試験 第9週: 徒然草 30段 第10週: 25段 第11週: 155段 第12週: プリント教材(言葉の学習2) 第13週: 167段 第14週: 56段 第15週: 73段 後期期末試験				
教科書	『要抄 徒然草』(日栄社)				
参考書	国語辞典、古語辞典(電子辞書)				
関連教科	国語、歴史、音楽など				
基礎知識	国語、倫理、日本史など				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験とレポートにより100点満点の点数評価をする。		
	定期試験	90%			
	レポート				
	演習・小テスト	10%			
	その他				
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 松崎安子	
授業科目名	文学IV		科目コード		
学年	4	開講時期	後期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	森鷗外と夏目漱石を取り上げ、それぞれの代表作品『舞姫』、『こころ』を中心として読み進めていく。作品における近代的言語表現のあり方や、作品内容と文化・社会状況とのかかわりなどを確認しながら、文芸作品のさまざまな読みの可能性を知っていく。授業形態は講義形式をとる。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:(A-2) 建築PRG:(D-1)		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:(a) 建築PRG:(a)	
到達目標	1. 日本の近現代の文芸作品について文化、社会、人物などのさまざまな視点から読んでいくことの可能性を知るとともに、自らの読書の幅を広げていけるようになる。 2. いろいろな言語表現を知り、それらを各自の表現力の向上へと役立てていけるようになる。				
授業の進め方とアドバイス	質問がある場合は休憩時間、放課後に随時受け付ける。また、次のような自学自習を60時間以上行うこと。 (1)授業内容を理解するため、予め配布したプリントで予習する。 (2)授業内容を理解するため、復習を行う。 (3)定期試験の準備を行う。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業ガイダンス、近代文学史における鷗外・漱石 第2週: 森鷗外 —人物と作品— 第3週: 『舞姫』を読む あらすじの確認と本文の通読 第4週: 『舞姫』を読む 観る—小説世界と映像世界(1)— 第5週: 『舞姫』を読む 観る—小説世界と映像世界(2)— 第6週: 『舞姫』を読む 従来の解釈(1) 第7週: 『舞姫』を読む 従来の解釈(2) 第8週: 後期中間試験 第9週: 夏目漱石 —人物と作品— 第10週: 『こころ』を読む あらすじの確認と従来の解釈 第11週: 『こころ』を読む 観る—小説世界と映像世界(3)— 第12週: 『こころ』を読む 観る—小説世界と映像世界(4)— 第13週: 『こころ』を読む 従来の解釈(1) 第14週: 『こころ』を読む 従来の解釈(2) 第15週: 全体のまとめ 学年末試験				
教科書	教科書: 森鷗外『舞姫』、夏目漱石『こころ』(いずれも集英社文庫)				
参考書	国語辞典(電子辞書でも可)				
関連教科	国語、社会など				
基礎知識	文語文法、日本史、世界史、倫理など				
成績の評価方法	総合評価割合		後期中間・学年末試験の成績、レポート(各時間の板書ノートや学修成果)の評価、その他(出席点)により、100点満点の点数評価をする。		
	定期試験	50%			
	レポート	35%			
	演習・小テスト				
	その他	15%			
		100%			
備考	参考図書については随時授業で紹介する。				

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 山藤良治	
授業科目名	社会科学I(前期)		科目コード		
学年	4	開講時期	前期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	この講義は、本校の教育目標のうち、「社会と自らを高める発展力」を養う科目である。基本的な史料を読み解きながら、日本近世社会の成立と構造について考察する。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:A-2 建築PRG:D-1		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:a 建築PRG:a	
到達目標	(1)日本近世社会の成立と構造に関する基本的かつ平易な史料を読み解くことができる。(2)史料を読み解くことを通じて、歴史的なものの見方、考え方ができる。				
授業の進め方とアドバイス	史料中心のプリントを配布する。史料は、受講生の発表をおりませながら読み進めるので、国語辞典、古語辞典、漢和辞典等の辞典類を1冊は持参すること。 質問がある場合は、休憩時間、放課後に随時、受け付ける。 また、次のような自学自習を60時間以上行うこと。 (1)授業内容を理解するため、予め配布したプリントで予習する。 (2)授業内容を理解するため、復習を行う。 (3)定期試験の準備を行う。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス、史料の解読と歴史的考察 第2週: 惣村の発展と一揆の世界 第3週: 織田信長と一向一揆 第4週: 織田政権と朝廷・天皇 第5週: 豊臣政権と朝鮮侵略 第6週: 將軍権力と朝廷・天皇 第7週: 「鎖国」体制下に開かれた四つの窓口 第8週: 中間試験 第9週: 大開発の時代～日本型農業経営の成立 第10週: 開発と環境破壊 第11週: 『慶安の触書』の農民像～日本人的勤労意識の源流 第12週: 「憂き世」から「浮き世」へ～現世観の変化 第13週: 幕藩体制下の家族と女性 第14週: 江戸幕府の政治改革 第15週: 百姓一揆とその思想 期末試験				
教科書					
参考書					
関連教科基礎知識	歴史I・II(1,2年)、現代社会(2年)、地理(3年)、社会科学II・III(4年)など				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験、授業中の発表を総合して評価する。		
	定期試験	60%			
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他	40%			
			100%		
備考					

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 山藤良治	
授業科目名	社会科学I(後期)		科目コード		
学年	4	開講時期	後期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	この講義は、本校の教育目標のうち、「社会と自らを高める発展力」を養う科目である。基本的な史料を読み解きながら、日本近世社会の成立と構造について考察する。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:A-2 建築PRG:D-1		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:a 建築PRG:a	
到達目標	(1)日本近世社会の成立と構造に関する基本的かつ平易な史料を読み解くことができる。(2)史料を読み解くことを通じて、歴史的なものの見方、考え方ができる。				
授業の進め方とアドバイス	史料中心のプリントを配布する。史料は、受講生の発表をおりまぜながら読み進めるので、国語辞典、古語辞典、漢和辞典等の辞典類を1冊は持参すること。 質問がある場合は、休憩時間、放課後に随時、受け付ける。 また、次のような自学自習を60時間以上行うこと。 (1)授業内容を理解するため、予め配布したプリントで予習する。 (2)授業内容を理解するため、復習を行う。 (3)定期試験の準備を行う。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス、史料の解読と歴史的考察 第2週: 惣村の発展と一揆の世界 第3週: 織田信長と一向一揆 第4週: 織田政権と朝廷・天皇 第5週: 豊臣政権と朝鮮侵略 第6週: 将軍権力と朝廷・天皇 第7週: 「鎖国」体制下に開かれた四つの窓口 第8週: 中間試験 第9週: 大開発の時代～日本型農業経営の成立 第10週: 開発と環境破壊 第11週: 『慶安の触書』の農民像～日本人的勤労意識の源流 第12週: 「憂き世」から「浮き世」へ～現世観の変化 第13週: 幕藩体制下の家族と女性 第14週: 江戸幕府の政治改革 第15週: 百姓一揆とその思想 期末試験				
教科書					
参考書					
関連教科基礎知識	歴史I・II(1, 2年)、現代社会(2年)、地理(3年)、社会科学II・III(4年)など				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験、レポート、授業中の発表を総合して評価する。		
	定期試験	60%			
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他	40%			
		100%			
備考					

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 布施圭司	
授業科目名	社会科学II(前期)		科目コード		
学年	4	開講時期	前期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	現代人の生命観・自然観に関する文献を読み進めながら、現代社会が直面する問題を考察する。社会が直面する諸問題の背景や課題について知見を獲得し、社会・文化・人間について幅広い見方を身につけることを目指す。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:A-2 建築PRG:D-1	関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:(a) 建築PRG:(a)		
到達目標	生命や自然をめぐる主な問題を簡単に説明できる。 現代人の生命観・自然観を顧慮した考え方を形成できる。				
授業の進め方とアドバイス	前半は、教科書を読み進めながら、諸問題について考察する。レポートを課し、後半は学生によるレポートのプレゼンテーションを中心とする。日頃は新聞などで世界の出来事に注意を払うことが望ましい。毎火曜日の16-17時をオフィスパワーとする。また、次のような自学自習を60時間以上行うこと。 レポートの作成／プレゼンテーションの準備／教科書の授業で扱わない部分の学習				
授業内容とスケジュール	第1週: ガイダンス、現代社会の問題 第2週: バイオテクノロジーの進展 第3週: リサイクルと社会 第4週: 生活地域主義 第5週: 生命とエコロジー 第6週: 科学と生命倫理 第7週: 学生発表1 第8週: 中間試験 第9週: 学生発表2 第10週: 学生発表3 第11週: 学生発表4 第12週: 学生発表5 第13週: 学生発表6 第14週: 補足説明 第15週: 全体のまとめ				
教科書	森岡正博『生命観を問いなおす』(ちくま新書)				
参考書					
関連教科	歴史I・II、現代社会、地理、社会科学I・III				
基礎知識	低学年の社会科学の知識				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験、レポート、その他(授業中の発表)により総合評価する。		
	定期試験	40%			
	レポート	30%			
	演習・小テスト				
	その他	30%			
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 布施圭司	
授業科目名	社会科学II(後期)		科目コード		
学年	4	開講時期	後期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	現代人の生命観・自然観に関する文献を読み進めながら、現代社会が直面する問題を考察する。社会が直面する諸問題の背景や課題について知見を獲得し、社会・文化・人間について幅広い見方を身につけることを目指す。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:A-2 建築PRG:D-1	関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:(a) 建築PRG:(a)		
到達目標	生命や自然をめぐる主な問題を簡単に説明できる。 現代人の生命観・自然観を顧慮した考え方を形成できる。				
授業の進め方とアドバイス	半は、教科書を読み進めながら、諸問題について考察する。 レポートを課し、後半は学生によるレポートのプレゼンテーションを中心とする。 日頃は新聞などで世界の出来事に注意を払うことが望ましい。 毎火曜日の16-17時をオフィスパワーとする。 また、次のような自学自習を60時間以上行うこと。 レポートの作成/プレゼンテーションの準備/教科書の授業で扱わない部分の学習				
授業内容とスケジュール	第1週: ガイダンス、現代社会の問題 第2週: バイオテクノロジーの進展 第3週: リサイクルと社会 第4週: 生活地域主義 第5週: 生命とエコロジー 第6週: 科学と生命倫理 第7週: 学生発表1 第8週: 中間試験 第9週: 学生発表2 第10週: 学生発表3 第11週: 学生発表4 第12週: 学生発表5 第13週: 学生発表6 第14週: 補足説明 第15週: 全体のまとめ				
教科書	森岡正博『生命観を問いなおす』(ちくま新書)				
参考書					
関連教科	歴史I・II、現代社会、地理、社会科学I・III				
基礎知識	低学年の社会科学の知識				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験、レポート、その他(授業中の発表)により総合評価する。		
	定期試験	40%			
	レポート	30%			
	演習・小テスト				
	その他	30%			
		100%			
備考					

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 加藤博和	
授業科目名	社会科学Ⅲ(前期)		科目コード		
学年	4	開講時期	前期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	本授業では、生活に必要な経済・法律について学習し、これまで学習してきた社会科の内容を基にして、幅広い教養と専門的な知識の修得を目指す。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:A-2 建築PRG:D-1		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:(a) 建築PRG:(a)	
到達目標	生活に必要な経済・法律に関する専門的な知識を身に付けること。 社会に関するより広く高度な知識を学習し、教養を深めること。				
授業の進め方とアドバイス	講師として実務家や専門家を招いた、生活に必要な経済・法律についての講義であり、積極的な受講態度が求められる。 また、学習を深めるため、次のような自学自習を60時間以上行うこと。 ●各講義に即した課題(レポート)の作成				
授業内容とスケジュール	第1週: 鳥取県内の消費者被害の現状 第2週: 法律について 第3週: 特定商取引法とクーリング・オフ(1) 第4週: 同上(2) 第5週: 演習 第6週: 消費者信用と多重債務 第7週: 金融・証券1 第8週: 金融・証券2 第9週: 中間試験 第10週: 金融・証券3 第11週: 食品 第12週: サイバー犯罪 第13週: 税金 第14週: 選挙 第15週: 新聞の読み方 期末試験				
教科書	該当なし				
参考書	各講師によるレジュメ・資料等を配付する。				
関連教科	歴史、現代社会、地理など				
基礎知識	1～3年で学習した社会科の内容など				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験及びレポートに基づいて成績を評価する。		
	定期試験	70%			
	レポート	30%			
	演習・小テスト				
	その他				
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 加藤博和	
授業科目名	社会科学Ⅲ(後期)		科目コード		
学年	4	開講時期	後期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	<p>本授業では、生活に必要な経済・法律について学習し、これまで学習してきた社会科の内容を基にして、幅広い教養と専門的な知識の修得を目指す。</p> <p>本授業は、鳥取県生活環境部くらしの安心局消費生活センターと本校との連携講座として開設されるもので、県民の方にも開放されている(県民の方と一緒に受講する)。</p>				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:A-2 建築PRG:D-1		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:(a) 建築PRG:(a)	
到達目標	<p>生活に必要な経済・法律に関する専門的な知識を身に付けること。</p> <p>社会に関するより広く高度な知識を学習し、教養を深めること。</p>				
授業の進め方とアドバイス	<p>講師として実務家や専門家を招いた、生活に必要な経済・法律についての講義であり、積極的な受講態度が求められる。</p> <p>また、学習を深めるため、次のような自学自習を60時間以上行うこと。</p> <p>●各講義に即した課題(レポート)の作成</p>				
授業内容とスケジュール	<p>第1週: 鳥取県内の消費者被害の現状</p> <p>第2週: 法律について</p> <p>第3週: 特定商取引法とクーリング・オフ(1)</p> <p>第4週: 同上(2)</p> <p>第5週: 演習者信用と多重債務</p> <p>第6週: 消費者信用と多重債務</p> <p>第7週: 金融・証券1</p> <p>第8週: 金融・証券2</p> <p>第9週: 中間試験</p> <p>第10週: 金融・証券3</p> <p>第11週: 食品</p> <p>第12週: サイバー犯罪</p> <p>第13週: 税金</p> <p>第14週: 選挙</p> <p>第15週: 新聞の読み方</p> <p>期末試験</p>				
教科書	各講師による講義資料を収録した冊子を教科書として第1回講義時に配付する(毎回の講義に持参するとともに、自学自習等に活用すること)。				
参考書	授業中に指示。				
関連教科	歴史、現代社会、地理、社会科学1、2など。				
基礎知識	1～3年で学習した社会科の内容など。				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験及びレポートに基づいて成績を評価する。		
	定期試験		70%		
	レポート		30%		
	演習・小テスト				
	その他				
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 中井大造	
授業科目名	実用工業英語		科目コード		
学年	5	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	この講義は技術者としての基礎力・コミュニケーション力を養う科目である。理工系の学生に必要とされる科学技術英語に関する基本的な語彙及び構文を習得し、科学技術英語に慣れ親しむための入門的能力を養う。				
関連する本校の学習教育目標	「複合システムデザイン工学プログラム」(E-1) 「建築学プログラム」(E-2)		関連するJABEE学習教育目標	「複合システムデザイン工学プログラム」(f) 「建築学プログラム」(f)	
到達目標	1. 科学技術全領域に関する基本的な語彙を習得すること 2. 科学技術英語で多用される構文の習熟に努めること 3. 明確で簡潔な文体で表現する能力をたかめる 4. 仕様書、科学技術論文などを読んだり作成したりするのに必要な基本的な知識を習得すること				
授業の進め方とアドバイス	内容別に教材化されているテキストを演習形式で進める。各設問に対して、事前に自分で解答を準備し授業で確認していくことを心がけてほしい。毎回理工系の学生に必要と思われる語彙のテストを行い、語彙力の増強に努める。質問等は授業の前後かオフィスアワーに研究室に来ること。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業ガイダンス(授業の進め方) 第2週: Lesson 1 Shapes(平面図と立体図) 第3週: Lesson 2 Properties I(物質の特性と状態の変化) § 1 第4週: Lesson 2 § 2reading 1(元素・化合物・混合物) 第5週: Lesson 3 Location(平面上の位置、立体的な位置) § 1 第6週: Lesson 3 Location(平面上の位置、立体的な位置) § 2 第7週: Lesson 4 Properties II(部分の名前とかたち) § 1 第8週: Lesson 4 § 2reading 2(経度と緯度) 第9週: 前期中間試験 第10週: Lesson 5 Structure I(部分と全体、各部分のつながり) § 1 第11週: Lesson 5 Structure I(部分と全体、各部分のつながり) § 2 第12週: Lesson 6 Structure II(材料とその構成要素) § 1 第13週: Lesson 6 § 2reading 3(地球の構造) 第14週: Lesson 7 Measurement I(どのようにして図形の大きさを測るか) § 1 第15週: Lesson 7 § 2reading 4(測定の基準) 前期期末試験 第16週: Lesson 8 Process I(自動車のパーツと実験用具) § 1 第17週: Lesson 8 Process I(自動車のパーツと実験用具) § 2 第18週: Lesson 9 Process II(能力を表すことばと身体の機能) § 1 第19週: Lesson 9 § 2reading 5(人の身体器官) 第20週: Lesson 10 Process III(順序や前後関係の表し方) § 1 第21週: Lesson 11 Process IV(植物の水のサイクル) § 1 第22週: Lesson 11 § 2reading 6(炭素の循環経路) 第23週: 後期中間試験 第24週: Lesson 12 Quantity(数量を表すことば) § 1 第25週: Lesson 12 Quantity(数量を表すことば) § 2 第26週: Lesson 12 § 2reading(ビタミンのはたらき) 第27週: Lesson 13 Cause and Effect I(動作とその結果) § 1 第28週: Lesson 13 Cause and Effect I(動作とその結果) § 2 第29週: Lesson 14 Cause and Effect II(バルブとそのはたらき) § 1 第30週: Lesson 14 § 2reading 8(サーモスタットの原理) 学年末試験				
教科書	Martin Bates・Tony Dudley-Evans「GENERAL SCIENCE」(南雲堂出版) COCET3300 理工系学生のための必修英単語3300(成美堂)				
参考書					
関連教科	英語総合・基礎英語演習・総合英語演習				
基礎知識	化学・物理・数学など理科系科目の基礎知識				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験70% 提出物10% 小テスト10% その他10%		
	定期試験	70%	その他は、積極的な授業参加を評価する。居眠り、内職(他教科の勉強)、携帯電話使用などは減点の対象とする。遅刻3回で1時間の欠席にカウントする。		
	レポート	10%			
	演習・小テスト	10%			
	その他	10%			
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	教養教育科 酒井康宏	
授業科目名	英米文学		科目コード		
学年	5	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	コミュニケーション能力育成という全体目標の中で、人生に潤いと気品を与える英語の韻文や散文を鑑賞することにより、国際社会に通用する人材を育てるために、鑑賞能力と批評能力を育成する。学年最後には人前で暗唱した詩または英文を表現力豊かに発表してもらうことにより、プレゼン能力を育成する。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:E-1 建築PRG:E-2		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:f 建築PGR:f	
到達目標	全体目標としてのコミュニケーション能力育成の中で、近代のアメリカの代表的韻文並びに散文を鑑賞することによって、近世から今日までのアメリカ社会にある様々な人間愛、多様な生き方、文学と社会の関連性、異なる風俗習慣等を理解すると同時に英語力とその表現力の向上を目標とする。				
授業の進め方とアドバイス	授業の進め方としては、前期は毎回学生に分担して英文を和訳してもらう。その際、予習、課題、レポート提出を毎回課すので、ハードな忍耐力を要する。後期は映画を鑑賞し、その中にみられる時代性やアメリカ文化を考察する。欠席や遅刻常習者、居眠り常習者に対しては、試験を受けさせないので、そのつもりで履修すること。毎週1回放課後オフィスアワーの時間を設ける。				
授業内容とスケジュール	第1週:オリエンテーション 第2週:ピューリタンの文学 第3週:理性の文学 第4週:ワシントン・アーヴィング 第5週:ジェームズ・フェニモア・クーパー 第6週:アメリカ詩の発展 第7週:エドガー・アラン・ポー 第8週:ラルフ・ワルド・エマソン 第9週:ヘンリー・デイヴィッド・ソロー 第10週:ナサニエル・ホーソーン 第11週:ハーマン・メルヴィル 第12週:ウォルト・ホイットマン 第13週:ユダヤ系の作家たち(1) 第14週:ユダヤ系の作家たち(2) 第15週:ユダヤ系の作家たち(3) 前期期末試験(筆記試験) 第16週:スティーヴン・スピルバーグについて 第17週:『ショーズ』 第18週:『未知との遭遇』 第19週:『E.T』 第20週:『バック・トゥー・ザ・フューチャー』シリーズ 第21週:『カラーパブル』 第22週:『アミスタッド』 第23週:『シンドラーのリスト』 第24週:『戦火の馬』 第25週:スピルバーグ作品にみられる「ホロコースト」 第26週:アメリカの大衆文化(1) 第27週:アメリカの大衆文化(2) 第28週:朗読・暗誦試験に向けて(1):発音と発声指導 第29週:朗読・暗誦試験に向けて(2):感動体験の指導 第30週:朗読・暗誦試験に向けて(3):内容や芸術性を重視した指導 学年末試験(英詩と英文の暗誦試験)				
教科書	アメリカ文学史講義(1)(南雲堂)				
参考書	『聖書』/『ギリシャ・ローマ神話』(岩波書店)/『オンリー・イエスタディ』(筑摩書房)				
関連教科	英語総合・基礎英語演習・国語科・社会科・芸術全般				
基礎知識	聖書・シェイクスピアの作品・ギリシャ・ローマ神話				
成績の評価方法	総合評価割合		定期試験45%、レポート45%、その他(10%)は出席点で、全出席時間数より欠席時間数の割合を算出する。前期期末試験、学年末試験(暗唱朗読試験)、レポート、すべてを考慮して評価する。		
	定期試験	45%			
	レポート	45%			
	演習・小テスト	0%			
	その他	10%			
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 山根アドリアナ	
授業科目名	英語会話		科目コード		
学年	5	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	授業は会話、スピーチ、ラジオショー、講演などの日常生活の場面に焦点を当てて聞くことで、いろいろな国の人の話す国際語としての英語に慣れることを目的とする。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG: E-1 建築PRG: E-2		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG: f 建築PRG: f	
到達目標	1)いろいろな国の人が話す異なったアクセントの英語を理解する 2)音の省略や結合、消滅を意識して、自然の英語の聞き取りが出来るようになる 3)場面に応じたリズムやイントネーションを身につける				
授業の進め方とアドバイス	リスニングの練習のあとスピーキングの練習をする。発音やリズム練習をする中で、音の区別やどんな内容の場合にどんな抑揚を使えばいいのかや、日常会話のなかでどのように音の結合や消滅が起こるかを学習する。 宿題もあり、オンラインのリスニングも利用する。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス 第2週: 能力(1) 第3週: 能力(2) 第4週: 個人情報(1) 第5週: 個人情報(2) 第6週: 日時(1) 第7週: 日時(2) 第8週: 日課(1) 第9週: 日課(2) 第10週: 復習 第11週: 場所 第12週: 動くもの 第13週: 指示(1) 第14週: 指示(2) 第15週: 復習・まとめ 前期期末試験 第16週: 人物描写(1) 第17週: 人物描写(2) 第18週: 家族(1) 第19週: 家族(2) 第20週: 復習 第21週: 好き嫌い(1) 第22週: 好き嫌い(2) 第23週: 未来(1) 第24週: 未来(2) 第25週: 現在と過去(1) 第26週: 現在と過去(2) 第27週: レストランにて(1) 第28週: レストランにて(2) 第29週: 復習 第30週: まとめ 後期末試験				
教科書	Fifty-Fifty Book One (Pearson Longman)				
参考書	英和辞典 和英辞典				
関連教科	英語総合 基礎英語会話 基礎英語演習				
基礎知識	4年生までの英語の知識				
成績の評価方法	総合評価割合		その他10% 授業での積極的な参加を評価する。		
	定期試験	70%			
	レポート	10%			
	演習・小テスト	10%			
	その他	10%			
備考	100%				

対象学科	全学科		担当教員	森田典	
授業科目名	英語演習		科目コード		
学年	5	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	演習	単位種別	履修
授業概要	CALL教室においてPCを利用しTOEIC対応学習ソフトで、前半はTOEICリスニング演習、後半はTOEICリーディング演習を行う。				
関連する本校の 学習教育目標	複合PRG : E-1 建築PRG : E-2		関連するJABEE 学習教育目標	複合PRG : f 建築PRG : f	
到達目標	TOEICスコア500～600点を目標とし、リスニング力、リーディング力、語彙力の向上を図り、年1回以上のTOEIC受験を義務付ける。				
授業の進め方と アドバイス	設問ごとに解答・解説を行う。また設問・解答・解説データは各端末に配信するので、USBメモリーを毎回持参すること。				
授業内容と スケジュール	第1週 : ガイダンス 第2週 : TOEIC演習 第3週 : TOEIC演習 第4週 : TOEIC演習 第5週 : TOEIC演習 第6週 : TOEIC演習 第7週 : TOEIC演習 第8週 : TOEIC演習 第9週 : 前期中間試験 第10週 : TOEIC演習 第11週 : TOEIC演習 第12週 : TOEIC演習 第13週 : TOEIC演習 第14週 : TOEIC演習 第15週 : TOEIC演習 前期期末試験 第16週 : TOEIC演習 第17週 : TOEIC演習 第18週 : TOEIC演習 第19週 : TOEIC演習 第20週 : TOEIC演習 第21週 : TOEIC演習 第22週 : TOEIC演習 第23週 : 後期中間試験 第24週 : TOEIC演習 第25週 : TOEIC演習 第26週 : TOEIC演習 第27週 : TOEIC演習 第28週 : TOEIC演習 第29週 : TOEIC演習 第30週 : TOEIC演習 学年末試験				
教科書					
参考書					
関連教科 基礎知識	1～3年次の英語総合・英語基礎演習・基礎英会話、4年次の英語総合演習				
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験		80%		
	レポート				
	演習・小テスト		20%		
	その他				
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	H26 開講なし	
授業科目名	時事英語		科目コード		
学年	5	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	平成26年度は開講しない				
関連する本校の 学習教育目標	複合PRG：E-1 建築PRG：E-2		関連するJABEE 学習教育目標	複合PRG：f 建築PRG：f	
到達目標					
授業の進め方と アドバイス					
授業内容と スケジュール					
教科書					
参考書					
関連教科					
基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験				
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他				
	100%				
備考					

対象学科	全学科		担当教員	H26 開講なし	
授業科目名	コミュニケーション		科目コード		
学年	5	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	平成26年度は開講しない				
関連する本校の 学習教育目標	複合PRG：E-1 建築PRG：E-2		関連するJABEE 学習教育目標	複合PRG：f 建築PRG：f	
到達目標					
授業の進め方と アドバイス					
授業内容と スケジュール					
教科書					
参考書					
関連教科					
基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験				
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他				
		100%			
備考					

対象学科	全学科		担当教員	H26 開講なし	
授業科目名	独語講読		科目コード		
学年	5	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	平成26年度は開講しない				
関連する本校の 学習教育目標	複合PRG：E-1 建築PRG：E-2		関連するJABEE 学習教育目標	複合PRG：f 建築PRG：f	
到達目標					
授業の進め方と アドバイス					
授業内容と スケジュール					
教科書					
参考書					
関連教科					
基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験				
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他				
		100%			
備考					

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 叶玉紅	
授業科目名	中国語		科目コード		
学年	5	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	<p>この授業で皆さんが身につけようとするのは、中国語の共通語(普通話)といわれていているものです。本授業は、発音編、基本編、応用編、の3つの部分で成り立っています。週1回の授業でも一年間で無理なく終わることができるように構成しました。</p> <p>発音編は、発音だけの学習ではなく、単語や会話、コラムの中で発音とその表記法が自然と身につくように構成されています。</p> <p>基本編は、「あいさつ」や「月日・曜日・時間の表現」「数字の読み方」など、基本的な会話や言い方を取り上げ、中国語の構成と表現が理解できるようになっています。</p> <p>応用編では、中国の学校、普通の生活の中でさまざまな場面に出会います。そこで、現地の人との会話を通じ、中国語を学びます。</p> <p>(1)学生のレベルに合わせ、中国語の発音に親しむ。 (2)正しい発音を身につけてから、中国語での挨拶、曜日の言い方、数字の読み方などを勉強し、表現できるようにします。 (3)実際、中国に留学し、生活の中で出会うさまざまな場面を出し、その時に使う中国語を学びます。この勉強を通して、学生に中国語に関心を待たせ、中国へ留学に行きたいという意欲をおこさせます。</p>				
関連する本校の学習教育目標	「複合システムデザイン工学プログラム」(E-1) 「建築学プログラム」(E-2)	関連するJABEE	「複合システムデザイン工学プログラム」(f) 「建築学プログラム」(f)		
到達目標	中国語の発音に親しみ、簡単な挨拶、及び曜日、数字などを表現できる。				
授業の進め方とアドバイス	<p>予習一次の授業で学習するところを読めるようにしておく 授業中一教科書の文を理解し、読めるようにする 復習一毎回、前回の学習内容を復習し、小テストを行う 普段の挨拶を中国語で行うことができるようになること</p>				
授業内容とスケジュール	<p>第1週:オリエンテーション 中国語の方言 普通話の話 第2週:中国語の発音 第3週:子音の発音 第4週:発音編まとめ テスト1 第5週:中国語での簡単な挨拶 第6週:中国の「肯定文」テスト2 第7週:中国語の「否定文」テスト3 第8週:中国語の「疑問文」テスト4 第9週:家族の紹介 第10週:中国語の形容詞 テスト5 第11週:中国語の数字の言い方 テスト6 第12週:中国語の量詞 テスト7 第13週:時間の言い方 日付の言い方 第15週:前期のまとめ 前期末試験 第16週:中国料理の食べ方 第17週:中国の乗物の言い方・乗り方 テスト1 第18週:中国の公共施設の言い方 第19週:中国の映画を鑑賞 第20週:映画鑑賞の感想を発表 テスト2 第21週:対になった形容詞 第22週:動作の表し方 テスト3 第23週:中国語の歌 第24週:お金の換算・食堂で注文する言葉 第25週:買い物物の言い方・お金の勘定の言葉 テスト4 第26週:中国の地名・名所旧跡 第27週:中国と日本の友好文化交流の活動の紹介 第28週:中国語での手紙の書き方 テスト5 第29週:中国旅行での言葉 第30週:後期のまとめ 学年末試験</p>				
教科書	『ニイハオ! 中国語』(金星堂出版)				
参考書	『中国語ジャーナル』(アルク出版) 『漢詩への誘い』(NHKシリーズ社出版) 『中国語で歌おう』(アルク社出版)				
関連教科基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験		100%		
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他				
備考			100%		

対象学科	全学科		担当教員	非常勤講師 権 文香	
授業科目名	韓国語		科目コード		
学年	5	開講時期	通年	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	履修
授業概要	ハングル学習として『チャレンジ！韓国語』を教材にし、より一層深い理解が得られるように説明していく。また、語彙力を伸ばし、教科書だけでなく実際に韓国で流行っている一言や、使える一言などにも注目し、韓国放送やビデオ、映画、音楽などの鑑賞もしながら耳にする機会を設ける。				
関連する本校の学習教育目標	「複合システムデザイン工学プログラム」(E-1) 「建築学プログラム」(E-2)		関連するJABEE学習教育目標	「複合システムデザイン工学プログラム」(f) 「建築学プログラム」(f)	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 韓国文字であるハングルの読み書きができる。 簡単な一般会話ができる。 ビデオなどを鑑賞し、自信の目で韓国を理解できる。 				
授業の進め方とアドバイス	日本ではキムチと焼き肉に代表される韓国が韓流ブームという言葉も流行り、はや10年が過ぎ、いまや韓国語への関心も定着しつつあるように思われる。ハングルの授業をもとに若者も隣国に関心を持ち、同様にひとつの文化として理解してもらいたいと考えます。				
授業内容とスケジュール	第1週: 授業のガイダンス 第2週: 第1課 ハングルの成り立ち 第3週: 第1課 基本母音字母と合成母音字母 第4週: 第2課 基本母音字母 第5週: 第3課 合成母音字母 第6週: 第4課 合成母音字母 第7週: 第4課 ハッチム 第8週: 第5課 合成母音字母 自己紹介練習 日常挨拶、表現方法 第9週: 第5課 合成母音字母 名詞十～ですか？ それに伴う答え方 第10週: 第5課 合成母音字母 名詞十～だといいます 身近なものの紹介 第11週: 第5課 合成母音字母 名詞十～ではありません 否定形表現 第12週: 第5課 動詞 5課の総合復習 自己紹介 挨拶 文章読み 第13週: 第6課 空いての予定や持ち物の有無を尋ねてみる表現方法 第14週: 第6課 場所を使い「～があります、ありません」の表現方法 第15週: 復習・まとめ 前期期末試験 第16週: 前期の総復習 第17週: 第7課 物や人を指し示す表現の理解 第18週: 第7課 物の所在に対して尋ねる表現 第19週: 第7課 名前、職業、専攻、趣味等について質問したり答える表現方法 第20週: 第7課 体や身の回りのものについての表現方法 助詞と疑問詞のまとめ 第21週: 韓国映画鑑賞 韓国にて話題になった映画、ドラマ等の表現 第22週: 第8課 固有数詞の理解・固有数詞を使っての表現 第23週: 第8課 時間(漢数詞、固有数詞)の使い方 曜日の表現 第24週: 第8課 干支、星座、年齢の言い方およびそれらを使っての表現方法 第25週: 第9課 漢数詞、電話番号電話での会話 月日の言い方 第26週: 第9課 時間の読み方、何時から何時までの表現 第27週: 第9課 位置を表す言葉またはそれを使っての表現方法 第28週: 第9課 今までに習った数詞を使っての疑似ショッピング会話 第29週: 第7・8・9課の総復習 第30週: 復習・まとめ 後期期末試験				
教科書	『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪東千津子 (白水社)				
参考書					
関連教科					
基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合		試験90%(筆記60% リスニング30%) 宿題提出10%		
	定期試験	90%			
	レポート				
	演習・小テスト				
	その他	10%			
		100%			
備考					

対象学科	全学科		担当教員	倉田久靖	
授業科目名	解析Ⅲ(自由選択)		科目コード		
学年	4	開講時期	前期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	線形代数について学習する				
関連する本校の学習教育目標	A-1		関連するJABEE	C	
到達目標	線形空間の部分空間について理解できる 線形空間の基底と次元について理解し、計算ができる 線形写像の表現行列を計算できる 線形写像の像と核について理解し、計算ができる				
授業の進め方とアドバイス	本科目は学修単位であるので、次のような自学自習を60時間以上行うこと。 参考文献により学習する。 事前に配布するプリントの問題を解く。 授業時に提示する問題を解く。 なお、質問は随時受け付ける。また、担当教員以外に質問しても良い。				
授業内容とスケジュール	第1週 ガイダンス、基底 第2週 基底 第3週 線形結合 第4週 部分空間 第5週 部分空間 第6週 基底の変換 第7週 基底の変換 第8週 前期中間試験 第9週 線形写像の表現行列 第10週 線形写像の表現行列 第11週 線形写像の像と核 第12週 線形写像の像と核 第13週 2次形式と2次曲線 第14週 連立線形微分方程式 第15週 連立線形微分方程式 前期末試験				
教科書					
参考書	堂平良一「大学・高専生のための 解法演習 線形代数」森北出版、近藤庄一「ひとりで学べる線型代数1・2」数学書房				
関連教科	専門科目を含むほとんどの科目				
基礎知識	3年生までの数学				
成績の評価方法	総合評価割合			成績は定期試験(70%)、演習など(30%)により評価する。	
	定期試験		70%		
	レポート				
	演習・小テスト		30%		
	その他				
備考	追認試験は実施しない。				

対象学科	留学生		担当教員	非常勤講師 笹間政典	
授業科目名	日本語教育II		科目コード		
学年	4	開講時期	前期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	日本語がある程度できる留学生を対象に、科学技術的な文章の読解を通して、技術文の読み書きができるようになることを目指す。技術用語は訳語を示すことにより説明時間の短縮を図るが、授業自体は直接法で行う。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:A-2 建築PRG:D-1		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:(a) 建築PRG:(a)	
到達目標	1) 技術文の読解ができるようになること。 2) 卒業論文が日本語で書けるようになること。				
授業の進め方とアドバイス	いろいろな分野の技術文の読解を行い、技術文の文体になれる。また学生の専門分野に関連したレポートを日本語で書かせ、添削指導を行うことにより作文能力の向上を図る。授業は技術用語の訳語(英語)を示す以外は、すべて日本語で説明する。 なお、本科目は学修単位であるため、60時間以上の時間をかけてレポートを作成すること。				
授業内容とスケジュール	第1週 技術文読解 第2週 技術文読解 宿題レポート(1) 第3週 技術文読解 第4週 技術文読解 レポート(1) 添削 第5週 技術文読解 宿題レポート(2) 第6週 技術文読解 第7週 技術文読解 レポート(2) 添削 第8週 技術文読解 宿題レポート(3) 第9週 中間試験 第10週 技術文読解 第11週 技術文読解 レポート(3) 添削 第12週 技術文読解 宿題レポート(4) 第13週 技術文読解 第14週 技術文読解 レポート(4) 添削 第15週 技術文読解 前期期末試験				
教科書	毎回プリントを配布				
参考書					
関連教科基礎知識	社会科学、人文社会				
成績の評価方法	総合評価割合		理解度、レポートの提出率、日本文の正確さなどを総合的に判断する。		
	定期試験	70%			
	レポート	30%			
	演習・小テスト				
	その他				
備考			100%		

対象学科	留学生		担当教員	非常勤講師 笹間政典	
授業科目名	日本語教育Ⅲ		科目コード		
学年	4	開講時期	後期	単位数	2
区分	選択	授業の形態	講義	単位種別	学修
授業概要	日本語がある程度できる留学生を対象に、科学技術的な文章の読解を通して、技術文の読み書きができるようになることを目指す。技術用語は訳語を示すことにより説明時間の短縮を図るが、授業自体は直接法で行う。				
関連する本校の学習教育目標	複合PRG:A-2 建築PRG:D-1		関連するJABEE学習教育目標	複合PRG:(a) 建築PRG:(a)	
到達目標	1) 技術文の読解ができるようになること。 2) 卒業論文が日本語で書けるようになること。				
授業の進め方とアドバイス	いろいろな分野の技術文の読解を行い、技術文の文体になれる。また学生の専門分野に関連したレポートを日本語で書かせ、添削指導を行うことによって作文能力の向上を図る。授業は技術用語の訳語(英語)を示す以外は、すべて日本語で説明する。 なお、本科目は学修単位であるので60時間以上の時間をかけてレポートを作成すること。				
授業内容とスケジュール	第1週 技術文読解 第2週 技術文読解 宿題レポート(1) 第3週 技術文読解 第4週 技術文読解 レポート(1) 添削 第5週 技術文読解 宿題レポート(2) 第6週 技術文読解 第7週 技術文読解 レポート(2) 添削 第8週 技術文読解 宿題レポート(3) 第9週 中間試験 第10週 技術文読解 第11週 技術文読解 レポート(3) 添削 第12週 技術文読解 宿題レポート(4) 第13週 技術文読解 第14週 技術文読解 レポート(4) 添削 第15週 技術文読解 学年末試験				
教科書	毎回プリントを配布				
参考書					
関連教科基礎知識	社会科学、人文社会				
成績の評価方法	総合評価割合		理解度、レポートの提出率、日本文の正確さなどを総合的に判断する。		
	定期試験	70%			
	レポート	30%			
	演習・小テスト				
	その他				
備考			100%		